

(H30)いずみおおつ子ども未来プラン推進施策の実施状況について



基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
1-1 「子ども の権利」 を守る まちづ くりの 推進	①「子 どもの 権利」 に関す る市民 意識の 啓発	「泉大津市 人権を尊ぶ まちづくり 条例」の推 進	人権くらしの相談課	「泉大津市人権を尊ぶまちづくり条例」を推進し、差別のない、明るい、住みよいまちを目指します。	・人権啓発推進協議会等の人権関係団体と連携し、憲法週間や人権週間における街頭啓発活動を実施したほか、人権問題を考える市民の集い等の開催や各種研修会等を実施しました。	・人権意識の醸成は継続した取組が必要であり、引き続き街頭啓発や各種セミナー、研修会等を実施する必要があります。
		「子どもの 人権」に関 する市民意 識の向上	人権くらしの相談課 指導課	「子どもの権利条約」の趣旨、「子どもが主人公(チルドレン・ファースト)」の理解促進を図る広報・啓発活動を実施します。 家庭や地域で「子どもが主人公(チルドレン・ファースト)」を实践するための事例集などを作成し、この考えの普及を図ります。	・各幼稚園・認定こども園で保護者対象に「人権教育講演会」を開催しました。「子どもの権利条約」について理解促進を図りました。	・「子どもの人権」はもちろん、社会に関わる人権課題についても理解を進めるとともに、PTAを中心に親学習についても啓発を行っていく予定です。
		教育・保育 における 「子どもの 人権」に関 する意識啓 発	人権くらしの相談課 子育て応援課 指導課	教育・保育の場において、子ども一人ひとりの基本的人権を尊重した教育及び保育の実践、教職員等の研修による資質向上を図ります。 男女共同参画社会の理念に基づき、男女共同参画の認識を持って子どもたちを取り巻く環境の整備、保育・授業での指導・援助に取り組みます。	・各校園所の人権教育担当者を対象に、年5回の人権教育研修を実施し、教職員の資質向上を図りました。 ・人権教育担当者会では、男女平等教育を含んだ人権課題について研修を行いました。また、各校園所ではすべての教育活動を通して、男女平等教育の推進を行いました。	・老若男女さまざまな市民に啓発できるよう講座等の充実を図る必要があります。 ・地域の民生委員、主任児童委員や専門職種による連携を強化し、支援を充実させていく必要があります。 ・引き続き、関係各課と連携を図りながら、DV被害者の支援を行う必要があります。 ・生徒指導や特別支援の視点を入れた人権教育を推進するとともに、新しい人権課題についても理解を深めるよう教職員研修を実施していく必要があります。 ・子ども一人一人の基本的人権を尊重して、教育・保育の実践力を高めていく必要があります。
		人権教育推 進事業	人権くらしの相談課 こども育成課 指導課	保・幼・認・小・中学校において人権教育啓発図書、ビデオ教材などを通じて、幼児、児童生徒、保護者の豊かな人権感覚を育む教育・指導を行います。 市内3中学校での、職場体験や保育実習、部活動交流を実施します。また、異年齢児とのふれあいを中心とした活動の推進、児童生徒と乳幼児との交流機会の充実、性教育・家庭科教育を推進します。	・人権擁護委員が小学校に赴き、いじめ等の人権問題を教える「人権教室」を実施しました。 ・各校園所の人権教育担当者を対象に、年5回の人権教育研修を実施し、教職員の資質向上を図りました。 ・幼稚園、認定こども園、小中学校の人権教育専門委員会の子どもの育ちと子育て支援専門委員会で「生きる力を育てる。友達っていいな。」のテーマで実践発表を行いました。 ・人権教育担当者会では、男女平等教育を含んだ人権課題について研修を実施しました。また、各校ではすべての教育活動を通して、男女平等教育の推進を行いました。 ・市内3中学校における職場体験学習、保育実習の実施。 ・幼児と小学生との給食交流、小学校における中学生の合唱発表。 ・就学前、進学前の体験学習、部活動体験。	・研修会の充実 ・市内の各小学校を順番に訪問し、引き続き「人権教室」を実施する必要があります。 ・外部研修会への積極的な参加。 ・研修会のより一層の充実を図る必要性があります。 ・校園所のふれあい活動を中心とした交流活動の充実。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
	②「子 どもの 権利」 を守る 相談支 援の充 実	子どもの権 利を守る相 談体制機能 の充実	人権くらしの相談課 子育て応援課	地域子育て支援センターにおける相談・指導体制の充実、保健センターにおける育児相談の充実、主任児童委員や人権擁護委員などとの連携を強化し、地域全体で子どもの権利を守るための支援体制機能の充実に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの虐待事案も含まれるDV相談に関係課と連携して対応するとともに、必要な場合には、支援措置申出書に対する証明を行いました。</li> <li>地域子育て支援センターの保育コンシェルジュが定期的に関係機関との会議を重ねることで、子育て情報の共有を図り、身近で相談しやすい場としての相談体制を築くことができました。</li> <li>保健センターにおける子育て相談及び、子育て広場における、地域の民生委員、主任児童委員や専門職種による子育て相談を実施し、多職種で子どもの見守りに努めました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、関係各課と連携を図りながら、DV被害者の支援を行う必要があります。</li> <li>地域の民生委員、主任児童委員や専門職種による連携を強化し、支援を充実させていく必要があります。</li> </ul>
		スクールカ ウンセラー 配置事業の 推進	指導課	中学校区でスクールカウンセラーによる教育相談と個々に応じた適切な指導を継続するとともに、事例を教員研修に活用します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校区にスクールカウンセラーを配置・・・年間35回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校における効果的な活用。</li> <li>小学校から中学校への引き継ぎ時における効果的な活用。</li> <li>情報のより有効的な活用と、さらなる連携。</li> <li>ケース会議等に参加するなど、カウンセラーの積極的な活用。</li> </ul>
1-2 「子ど もの 権利」 の侵 害防 止の 推進		泉大津市要 保護児童対 策地域協議 会の推進	子育て応援課 指導課	総合的・組織的な対応を引き続き推進するため、地域住民やNPOなど地域に根ざした組織・団体のネットワークを強化し、関係機関の連携と見守り機能の強化を図ります。虐待相談ホットラインを継続し、虐待の早期発見に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待予防として、子育てガイドブックの配布、子育て支援関係者会議を実施、おやこ広場、各小中学校、就学前施設に虐待防止啓発リーフレットを配布しました。虐待の早期発見として、各関係機関(各小中学校、幼稚園、保育所、認定こども園、保健センター等)と連携をとることによって、要支援家庭の早期把握を実現しました。虐待対応として、通報からの48時間以内の現認を達成、慢性的ネグレクト等に対する生活支援員派遣(家事支援)を3件実施、虐待相談ホットラインにより児童虐待通告・相談を3件受け、居所不明児の実態調査を行った結果、居所不明児数は0人でした。</li> <li>母子健康手帳の交付時や乳幼児健診、子育て相談時などにおいて、支援の必要な親子には関係機関と密に連携をとり、虐待予防及び早期発見のための支援を行いました。</li> <li>不登校支援ネットワーク いじめ・不登校研究委員会の開催・・・年間3回</li> <li>社会性育成ネットワーク 泉大津市小・中学校生活指導研究協議会・・・年間10回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の資質の向上を図り、虐待予防、早期発見に努める必要があります。</li> <li>児童虐待の未然防止から早期発見・早期対応、さらには被虐待児童の適切な保護に至るまでの総合的、組織的な対応を推進するため、関係機関とのより効果的な連携が必要と考えられます。</li> <li>職員の資質の向上を図り、虐待予防、早期発見に努める必要があります。</li> </ul>
		虐待の未然 予防に向けた 啓発の推 進	子育て応援課 指導課	虐待を発見した場合の通報義務などについて、地域住民に向けた啓発を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓発活動として、こどもフェスティバル等でオレンジリボンキャンペーンを実施、コンビニに啓発ポスター掲示を依頼しました。</li> <li>虐待予防月間には館内にポスター掲示を行いました。また、4か月健診時に啓発リーフレットや啓発グッズを配付し、啓発を行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より広い範囲でのポスター掲示と通報依頼をすすめる必要があります。</li> </ul>

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		教職員・保 育士等に対 する研修の 充実	こども育成課 指導課	虐待の早期発見に結びつくよう、教職員・保育士等に対する研修の充実を図ります。	・生徒指導主事及びこども支援コーディネーター研修会の開催・・・年間2回 ・中学校生徒指導主事協議会の開催・・・年間3回 ・泉大津市教職員全体研修会の開催。 ・泉大津市小・中学校生活指導研究協議会・・・年間10回	・引き続き、教職員、保育士等に対する研修を行い、虐待の早期発見に努める必要があります。 ・各小中学校における研修内容の周知。 ・関係諸機関とのさらなる効果的な連携。 ・虐待の早期発見に努め、通告義務に関する周知が必要です。
		特定教育・ 保育施設の 提供体制の 確保	こども育成課	関係機関と連携して教育・保育提供区域毎の各年度の見込みを充足する提供体制を構築し、待機児童解消と身近な場所での子育て環境の向上を図ります。	えびす認定こども園の4月1日開園に向け、増改築工事や関係事務を行った。	市内3園目の公立認定こども園であるえびす認定こども園の運営を軌道にのせ、他の園所と協力し更なる提供体制の充実を図ります。
	①児童 虐待の 未然予 防と早 期対応	地域型保育 事業認可に 係る需給調 整の実施	こども育成課	教育・保育提供区域において教育・保育事業の供給が不足している場合、当該区域に認可基準を満たす地域型保育事業所の設置申請に対しては、原則、認可することとなっています。(児童福祉法第34条の15第5項) そのため、地域型保育事業の認可申請のある場合は、法に則して、本計画に定める教育・保育提供区域の必要利用定員総数(量の見込み)に基づき、需給調整を行うものとします。 (特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業所の利用定員総数が、計画で定める必要利用定員総数にすでに達しているか、申請された地域型保育事業所の設置によって必要利用定員総数を超える場合、地域型保育事業の認可をしないことがある。)	新規認可申請無。	引き続き地域型保育事業の認可申請のある場合は、本計画に定める保育・教育提供区域の必要利用定員総数に基づき、需給調整を行うものとします。
		保育所・幼 稚園・認定 こども園の 人材育成	こども育成課 指導課	保育サービスの多様化、地域における保育所・幼稚園・認定こども園機能の充実に対応できるよう保育士や幼稚園教諭への研修等の充実を図り、資質の向上に努めます。	・就学前施設(保育所、幼稚園、認定こども園)の教育の充実と教員の資質の向上を図るため、教職員を対象に泉大津市就学前教育基礎講座を3回実施しました。	・研修内容の充実を図る必要があります。
		保育所等の 運営に対す る支援	こども育成課	待機児童の解消をはじめ、乳児保育、障がい児保育、一時預かりなど多様な保育サービスの充実を図るため、民間保育所等への運営支援に努めます。	市内の民間幼保連携型認定こども園(7園)に対し、保育・教育内容の充実を図ることを目的に、運営費や障がい児保育、延長保育や一時預かり保育等に関する支援を行いました。	市内の民間幼保連携型認定こども園(7園)に対する支援を継続し、多様な保育サービスの充実を図る必要があります。
		豊かな感性 や創造力を 育む教育・ 保育の充実	こども育成課 指導課	一人ひとりの子どもの発達段階に即応した指導・援助に努め、豊かな感性や創造力を育む教育・保育内容の充実を図ります。 自然体験や交流活動を取り入れ、地域行事を活用し、地域特性を生かした特色ある就学前教育を推進します。	・幼稚園、保育所、認定こども園の教育計画、保育計画に基づいた園・所運営のヒヤリングを実施しました。 ・園内研修を実施し、指導内容について検証し教職員の資質向上を図りました。	・平成30年実施の新幼稚園教育要領、保育指針、認定こども園教育要領に基づいた計画を立案していきます。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
2-1 就学 前教 育・保 育の 質の 向上		認可外保育 所職員の健 康管理	こども育成課	認可外保育施設の職員について「認可外保育施設従事職員健康診断受診助成金」により健康保持・増進を図ります。	・市内にある2園の認可外保育施設(オレンジ保育園、シード保育園)の保育士に対し、健康診断受診にかかる費用の補助を行いました。、認可外保育施設に従事する職員に対して、健康診断を実施することにより、利用する児童の衛生・安全を確保し、児童の健全育成に資することができました。	・児童の衛生・安全を確保し、児童の健全育成に資するため、適切に補助金を助成していきます。
		特定教育・ 保育施設の 質の向上	こども育成課	職員配置の充実、職員の資質向上に向けた研修等の充実、運営に関する自己評価、外部評価、第三者評価等の導入支援、定期的な情報交換の実施、苦情処理委員会の設置、府と連携した監査の実施、在日外国人及び帰国者の乳幼児の受け入れ体制の充実など。	・園内研修で保育のねらい、評価に対する実践力を身に付け自己評価診断を実施し資質向上に努めました。 ・幼稚園、認定こども園では教育診断を実施し、保護者の意思を聴き取りました。 ・保護者の苦情に対しては、内容を確認し指導を行いました。	・4歳児、5歳児合同学級の保育所に対する、年齢別保育実施に向けての職員配置の充実に努める必要があります。
②教 育・保 育の一 体的提 供の推 進		認定こども 園の設置推 進	こども育成課 指導課	就学前の教育・保育を一体として捉えた認定こども園の設置を推進します。 認定こども園の開園整備にあたり、幼稚園・保育所の職員交流の充実を図り、0～5歳児の教育・保育に精通した職員の育成を図ります。	えびす認定こども園の平成30年4月1日開園に向け、増改築工事や関係事務等、準備を進めた。	平成30年度に市内公立認定こども園3園目のえびす認定こども園を設置予定です。
		保育所・幼 稚園・認定 こども園交 流事業の推 進	こども育成課 指導課	保育所・幼稚園・認定こども園の子どもたちの交流、教職員の合同研修、子育て支援事業の連携など、幼稚園と保育所の連携を強化し、教育・保育内容の充実を図ります。	・公民就学前施設の5歳児が参加するこどもフェスティバルの充実。お花の会や合同運動会にも取り組み、連携での育ちを保護者に周知しました。 ・幼稚園職員が認定こども園での一日研修に参加し、0～5歳児の長時間保育の実態を学びました。	・市民会館閉鎖に伴い、こどもフェスティバルを継続していくための開場変更、開催方法等を検証します。
		校種間連携 強化事業の 推進	こども育成課 指導課	おづみんプロジェクト(教育コミュニティ推進計画)に基づき、保・幼・認・小・中・高校・大学との連携強化を図ります。	・小学校訪問、給食体験、体験入学、職場体験等の活動に取り組み、校種間交流を進めました。 ①学びをつなぐ保幼小連携推進事業 ・保幼小体系化プログラム作成検討委員会(年間8回) ・泉大津市就学前教育基礎講座(年間3回) ②小中連携推進事業 ③コミュニティ人材育成事業 ④学校力向上事業	・小学校訪問、給食体験、体験入学、職場体験等の活動に取り組み、校種間交流を進め、スタートカリキュラムの各校の充実に向けた取り組みを行います。 ①学びをつなぐ保幼小連携推進事業 ・保幼小体系化プログラム作成検討委員会(年間8回) ・泉大津市就学前教育基礎講座(年間3回) ②小中連携推進事業 ③コミュニティ人材育成事業 ④学校力向上事業

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		より良い事業の提供方針の実施	こども育成課	乳幼児期の発達が連続性を有すること、また、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培うことに十分留意し、妊娠期を含むすべての子育て家庭に適切なサービス・事業の利用を促進するとともに、質の高い保育サービス及び地域子ども・子育て支援事業を提供するため、関係機関と連携して取り組みます。	保育コンシェルジュ(基本型、特定制)、発達支援コンシェルジュ(母子保健型)が連携し、妊娠期から就学前の子育て支援ネットワークを構築し、機能強化を図るため関係機関の専門性強化と関係機関間の連携強化を進めました。	・市内にある子育て期間の実態把握を行い、子育てネットワークのさらなる連携を推進します。
①社会 をたくま しく生き 抜く力 を育む 教育の 推進		保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の連携強化	こども育成課 指導課	就学前教育と小学校教育との連続性及び教育内容の体系化を目指し、大学及び専門機関と連携し、保・幼・認・小学校の教員が合同で小学校教育につながる指導方法の研究と、体系化したプログラムの開発を行います。	・保幼小体系化プログラム作成検討委員会を6回開催し、大学教授の指導のもと、接続期の研究を進め、作成したアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムリーフレットをもとに各校において研究を進めました。1月には保幼小接続期カリキュラム研修会を開催し、接続期カリキュラムの重要性を周知しました。また、就学前教育基礎講座を開催し、就学前教育の充実を進めました。 ・接続期の学びについての検証を進めました。	・市のスタートカリキュラムリーフレットを活用して、各校の実態に合わせた具体的な取組みを検討する必要があります。 ・市内全校園所での交流、取組みを推進します。
		総合的教育力活性化事業の推進	市民協働推進課 指導課 スポーツ青少年課	中学校区内の学校、PTA、自治会、地域産業団体、子ども会、青少年指導員等各種関係者による地域教育協議会(すこやかネット)を中心に、学校・家庭・地域の連携と協働による活動を展開します。	・PTA、自治会、子ども会、青少年指導員など各種関係者として地域教育協議会(すこやかネット)に参画しました。 ・泉大津市地域教育連絡協議会総会の開催。 ・各地域教育協議会の主な活動として、東陽フェスタ、星空観望会、歩こう会、歴史探訪会、ものづくり教室、科学実験教室、朝のあいさつ運動を実施しました。	・引き続き、PTA、自治会、子ども会、青少年指導員など各種関係者として地域教育協議会(すこやかネット)に参画する必要があります。 ・地域人材の安定的な確保。
		学力向上推進事業の推進	指導課	泉大津市教育推進プランに基づき、各学校において現状の分析を行い、個に応じた指導を充実する体制強化、授業方法の工夫改善や授業研究、学習基盤としての生活指導などの充実を推進します。 小学校の低・中学年での学習内容の到達度を把握し、結果を分析・考察することで、学力向上の手立てを示すとともに、学習でのつまずきに対する効果的な支援を行います。	・泉大津市学力到達度テスト(小2・小4・中1)の実施。 ・少人数習熟度別指導の充実。 市費による少人数・習熟度別講師の配置。 チームティーチングや1学級2分割指導、2学級3分割指導などの習熟度別指導の実施。 ・小中連携授業力向上研修会による、小中連携の視点での授業改善。 ・学校支援アドバイザーの派遣による学校支援。 ・ICT機器を活用した授業の推進。 ・英語検定受検料補助。	・少人数学級支援事業において、さらなる充実をはかる必要があります。 ・学校支援アドバイザーによるきめ細かな学校支援。 ・泉大津市学力到達度テストの実施学年の拡大。 ・ICT機器を活用した授業の推進。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
2-2 子どもの 個性と 能力を 伸ばす 学校の 充実		国際理解教育推進事業	指導課	ALT(外国人英語指導助手)、教育支援センターの英語指導員を活用し、保・幼・認・小・中学校を通じた英語でのコミュニケーション能力の向上、国際社会で主体的に生きる態度と能力を培う教育を推進します。	○ALT(英語指導助手)の派遣日数。 ・東陽中・誠風中 ……年間88日間 ・小津中 ……年間44日間 ・全小学校 ……年間30日間 ・幼稚園 ……年間7回 ・認定こども園 ……年間7回 ・保育所 ……年間6回 ○英語指導員(日本人)の派遣回数(担任とTTで外国語活動の授業支援) ・第3・4・5・6学年 ……年間 各学年合計30日	・平成32年学習指導要領改訂に向け、平成30年度より本市においては先行実施を行っており、高学年への派遣ではなく、中学年(3・4学年)への派遣を実施しています。
		交流教育の推進	指導課	教職員の障がいに関する知識と指導力の向上に努めます。特別支援学級在籍児童が、希望に応じて通常学級での学習を行うことのできる指導体制の強化を図ります。	・各校において、特別支援コーディネーターを中心に、校内体制の構築と研修を進めるとともに、障がいのある児童生徒に、それぞれの障がいに応じた教育課程を編成しました。	・今後、一人ひとりの障がいの状態に応じた個別の支援を充実させるために、人的な支援、また、教育環境や教具教材の整備等の更なる合理的支援が必要であると考えられます。
		在日外国人及び帰国者の児童生徒に対する指導の充実	こども育成課 指導課	保育所、幼稚園、認定こども園、学校生活や就学・進路選択のための支援の充実を図ります。	・渡り間もない児童生徒について、学校・保護者と連絡を密にとり、できるだけ早く学校生活になじめるよう、日本語指導だけでなく、保護者との意思疎通に関しても日本語ボランティアを配置しました。 ・渡り1年以上の児童生徒については、生活言語は身につけているが、学習言語に支障がある場合、日本語ボランティアを派遣し、授業中の支援や取り出し授業などを中心に実施しました。	・渡り間もない児童生徒については、できるだけ迅速な日本語ボランティアの配置が必要であり、サバイバル日本語を修得することによって、少しでも早く日本での生活に慣れるように支援する必要があります。
		地域間交流の推進	指導課	小・中学校において、各地域の文化に触れ、昔遊びなどを通じて、本市への郷土愛や愛着を深める活動を推進します。	・社会科での泉大津市の学習(小学3年生)。 ・地域の方の指導による茶華道体験の実施。	・郷土愛や愛着を深める活動の継続的な実施とともに、新たな取組みの開発。
		学校保健事業(健康診断等の実施)	教育政策課 指導課	学校での各種健康診断などの機会を通じて、病気の予防や早期発見、小児生活習慣病への対応・指導を行います。「保健だより」などにより啓発活動を実施します。	・学校における各種健康診断などの機会を通じて、病気の予防や早期発見に努めるとともに、肥満傾向のある児童生徒を対象に小児生活習慣病検診を希望制により実施し、個別指導を行いました。 ・全校共通及び各校ごとに「保健だより」等を発行し、啓発活動を行いました。	・小児生活習慣病検診の受診率を上げるため、今後、更なる保護者への周知及び啓発が必要と考えています。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
②思春 期保健 の充実		相談体制の 充実	指導課	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター専門相談員等の活用と連携を進め、問題解決に取り組むための相談体制の強化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各中学校に週1回、SC(スクールカウンセラー)を配置。</li> <li>市内2小学校に隔週で1回ずつ、SSW(スクールソーシャルワーカー)を配置。</li> <li>中学校区小学校からの要請に応じて、小学校にもSCを派遣。</li> <li>配置校以外からの要請に応じて、小中学校にSSWを派遣。</li> <li>小学校6年生対象として、SCを小学校に派遣(中学校進学前)。</li> <li>泉大津市スクールカウンセラー・教育相談情報交換会の実施。</li> <li>泉大津市SC・SSW・CSW情報交換会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市単独経費によるSSWの配置。</li> <li>情報交換会の充実を図り、より効果的な活用と連携を目指します。</li> <li>より充実した派遣体制の検討。</li> </ul>
		性情報に対 する学習機 会の充実	指導課	保健体育の授業や、養護教諭による性教育の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小中学校の保健体育の授業や、養護教諭による性教育の授業を行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階に応じた効果的な指導が必要と考えられます。</li> </ul>
		飲酒・喫煙・ 薬物利用に 対する教育 の充実	指導課	関係機関との連携を図りながら、学校教育を通じて、心身に害を及ぼす行為の防止に関する教育を充実します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校における薬物乱用防止教室の開催。</li> <li>保健の授業時等における薬物乱用防止教育の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物乱用防止教室等における、児童生徒に対してのより効果的な啓発。</li> </ul>
③指導 体制の 充実と 教育環 境の整 備		生徒(生活) 指導推進事 業の推進	指導課	生徒指導主事、こども支援コーディネーターを中心に、一人ひとりの良さを踏まえた生徒指導を実施します。小中学校生活指導研究協議会の毎月実施、小中学校合同研修会を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導主事及びこども支援コーディネーター研修会の開催・・・年間3回</li> <li>中学校生徒指導主事協議会の開催・・・年間3回</li> <li>泉大津市教職員全体研修会の開催・・・年間2回</li> <li>いじめ・不登校研究委員会の開催・・・年間3回</li> <li>泉大津市小・中学校生活指導研究協議会・・・年間10回</li> <li>Q-U活用研修会の開催</li> <li>泉北地区二市一町中学校生徒指導主事協議会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小・中学校における研修内容の確実な伝達。</li> <li>関係諸機関との効果的な連携。</li> </ul>
		良好な教育 環境の整備	こども育成課 教育政策課	より良い教育環境の整備に向けて、年次的に施設の改修、設備等の更新を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>えびす認定こども園の開園に向け、増改築工事を完了しました。</li> <li>かみじょう認定こども園の耐震補強工事を実施しました。</li> <li>旭幼稚園の耐震診断を実施しました。</li> <li>上條小学校特別教室棟増築を完了し、良好な教育環境の整備を行いました。</li> <li>各小中学校の照明器具のLED化を行い、明るくて使いやすい学校の整備を行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の老朽化が進んでいる中で、安全で安心して教育できる環境を整備できるよう、施設の維持管理に努める必要があります。</li> <li>今後とも良好な教育環境の整備を図るため、校舎の改修の取組みを推進します。</li> </ul>

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
①一人 ひとりの自立 支援の 充実	適応指導教 室の充実	指導課	学生ボランティアと協力し、不登校児童生徒の自信や自尊感情を回復し、学校復帰を目指します。	・大学と連携し、適応指導教室に学生ボランティアを配置しました。生徒と年齢の近い学生が活動と一緒に参加することで通室回数が増え、結果的に学校に復帰する生徒が増えました。	・学生ボランティアの安定した確保。	
				ひきこもりに関する関係機関ネットワークの整備	子育て応援課 こども育成課 指導課 スポーツ青少年課	府保健所の専門相談や子ども家庭センターと連携し、専門相談員を中心とする相談支援体制の充実を図ります。
	地域における体験・交流・学習活動の充実	生涯学習課 (社会教育施設) スポーツ青少年課	社会教育施設を拠点とした学習及びスポーツ活動や体験活動の充実を通じて、子どもの居場所づくりや世代間交流による子どもの健全育成に努めます。	・総合体育館などの講座を通じ、子どもの居場所づくりや健全育成に努めました。 ・公民館や図書館などの講座やイベントを通じて、子どもの居場所づくりや健全育成に努めました。	・引き続き、社会教育施設を拠点とした学習及びスポーツ活動や体験活動の充実にも努めます。	
各年齢層が ふれあえる 機会や場づ くり	市民協働推進課 福祉政策課 こども育成課 教育政策課 生涯学習課 スポーツ青少年課	各地区の様々な団体と協力し、全市的に各年齢層が関わりを持てる場を創出します。	・自治会連合会とともに、自治会の加入促進に取り組むとともに地域活動の取組みを支援しました。 ・仲よし学級で、地域住民・団体と子どもたちが交流できるイベントを実施しました。 ・東港長寿園、松之浜長寿園に続き、旭長寿園でも管理の一部を自治会に委託し、地域のコミュニティの場としての活用を進めました。 ・地区福祉委員活動では、小地域ネットワーク活動を全9地区で実施し、福祉委員を中心に自治会関係者・老人クラブ・民生委員児童委員などが、引き続き、子育て支援や世代間交流事業に取り組みました。	・自治会等と連携し、自治会加入促進など地域活動の活性化を図る必要があります。 ・仲よし学級で多世代の住民がつながるきっかけづくりや交流の場づくりに取り組みます。 ・長寿園を活用し、地域のコミュニティの場として、多世代の住民や社会資源がつながるきっかけづくりや交流の場づくりに取り組みます。 ・引き続き、各地区の様々な団体と協力し、全市的に各年齢層が関わりを持てる場の提供に努めます。		
			安全な遊び場の確保	都市づくり政策課 スポーツ青少年課	各公園遊具の日常点検を実施し、危険遊具の修理及び撤去を行い、遊具使用に対する安全に努めます。幼児や児童の安全な居場所づくりを確保するため、小学校校庭の開放において、地域住民による校庭開放管理指導員を設置し、円滑な運営に努めます。	・毎月1回以上、点検を実施しました。また、点検の際に修繕が必要と判断された遊具の修繕や更新を行い、安全の確保に努めました。 ・土・日曜日の校庭開放では、校庭開放管理指導員が各小学校において子どもたちの安全を確保するなど円滑な運営を行いました。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
2-3 地域 全体の 青年健 育成の 推進	②多様 な地域 活動・ 体験活 動の充 実	小学生の放 課後の生活 の場を確保	スポーツ青少年課	小学生の放課後の安全な遊び、生活の場を確保するため、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する放課後子ども教室を、市内すべての小学校区において、小学校や生涯学習施設に段階的に整備するとともに、仲よし学級の児童を含めたすべての児童がプログラムに参加できるよう努めます。	・放課後の安全な遊び、生活の場を確保するため、放課後子ども教室を市内のすべての小学校で開催し、仲よし学級の児童も含めたすべての児童が参加できるイベントを実施しました。	・放課後子ども教室を継続的に運営するために、引き続き地域、小学校、生涯学習施設などと連携し、内容の充実を図る必要があります。
		ボランティ ア体験学習 会	福祉政策課 (社会福祉協議会)	ボランティア体験を通じた福祉教育により、ボランティアの人材確保と福祉のまちづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に小中学生を対象として、手話、点字、車いす体験を実施し、ボランティアによるボランティア体験学習指導を行いました。7回、延べ545名の生徒が参加し福祉教育の推進に取り組みボランティアのきっかけづくりに努めました。</li> <li>・主に3歳児から中学生を対象として、夏休みボランティア体験学習会を開催し、各ボランティアグループの協力のもと、点字、手話、朗読、筆記通訳をはじめ8つの体験内容について、市広報紙等への掲載や学校へのチラシ配布依頼を通じて、延101名が参加し、幼少期からのボランティアの心を育むきっかけづくりに努めました。</li> <li>・大阪府ボランティア・市民活動センターの夏のボランティア体験プログラムに共催し、市内の福祉施設の協力のもと、市内外を問わず中学生から社会人を対象とした体験メニューにより実施しました。社協広報紙やインターネットにより、啓発を行い、延べ7名が参加し、単発的又は引き続き長期的にボランティアの人材確保につながるよう努めました。</li> <li>・ボランティアサロンについては、ボランティア連絡会の協力のもと、毎月第4火曜日金12回開催し、参加人数延べ327名で、ボランティアに関する様々な情報やボランティア養成講座について啓発し、ボランティア登録につながるよう努めました。</li> <li>・ボランティア連絡会、ボランティア研修会なども開催しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みボランティア体験学習会等では、子どもだけでなく保護者も見学に来られ、ボランティアに関する理解を深めていただく機会でもあります。そういった機会に理解を深めていただけるよう、今後も引き続き学校等へのボランティア学習の啓発を行っていきます。</li> <li>・ボランティアセンターを中心に、多世代が参加できる講座、学習会の実施を行うとともに、ボランティアに関する相談、情報提供体制の充実に取り組みます。</li> <li>・ボランティア連絡会の協力のもと、引き続きボランティアサロンを開催し、ボランティアとの交流と情報交換等により、人材の確保に努めていきます。</li> </ul>
		自然に親し む機会の充 実	都市づくり政策課 指導課	地域の環境を通じて、環境保全意識を高める総合的環境教育事業(学習活動)を推進します。 緑と花の写生コンクールを継続し、緑化意識の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑と花の写生コンクールを行い2,632点の応募を頂く等、子ども達が緑とふれあい、愛着を感じてもらう機会を図ることが出来ました。</li> <li>・環境出前授業・・・全小学校で実施。</li> <li>・環境カウンセラーなど専門家による出前授業を通して、環境について関心・意欲を持ち、主体的に調べようとする態度を育て、机上では体験することのできない自然を肌で感じることで環境について深く考えることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も緑と花の写生コンクール等を行い、子ども達が緑とふれあい、愛着を感じてもらう機会を提供します。また、プレイパーク等自然と親しむ機会を更に提供できるよう検討を行う必要があります。</li> <li>・総合的な学習の時間や理科の授業はもちろんのこと、さまざまな教科における環境教育の推進が必要です。</li> </ul>
次代の地域 リーダーの 養成	スポーツ青少年課	ジュニア・リーダー養成事業として、子ども会会員の小学5年生から中学2年生を対象に「ひよこの学校」を実施します。 青少年リーダーグループによる野外活動事業として、市内小学校の4～6年生を対象にキャンプの実施を通じ、協調性を深める事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニアリーダー養成事業として、子ども会会員の小学5年生から中学2年生を対象に講習会やキャンプを行う「ひよこの学校」を実施しました。</li> <li>また、野外活動事業として、市民公募し集まった市内小学校の3～5年生を対象にしたキャンプを通じ、協調性を深めることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、子ども会を中心に地域活動を行う青少年のジュニアリーダーを養成するための事業を実施する必要があります。</li> <li>その他、野外活動事業として、市内小学校の3～6年生を対象にキャンプを実施するなど協調性を深める事業を推進します。</li> </ul>		

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
③若者の就労支援対策の充実		スポーツ教室の充実	スポーツ青少年課	スポーツを通じて子どもの心身の育成を図ることを目的として各種スポーツ教室の充実に努めます。	・各競技のスポーツ教室の実施はもちろんのこと、家庭でも取り組めるプログラムを主な内容とした親学習講座を開催しました。	・運動・スポーツに関する親学習講座の充実を引き続いて行うとともに、大学と連携したスポーツ教室やスポーツ教室充実のための指導者養成等の取組について調査・検討を行う必要があります。
		子ども会活動、スポーツ少年団活動などの充実	スポーツ青少年課	様々なスポーツ活動や体験活動などを支援し、地域全体で子どもの心身の育成を図ります。	・スポーツ少年団などを通じて地域人材が運動・スポーツの指導を行い、子どもの居場所づくりや健やかな体づくりに寄与できました。 また、子ども会指導者を中心に、マラソン大会やオセロ大会など様々な体験活動を実施し、子どもの心身育成を図りました。	・スポーツ少年団などの活動を引き続き支援するとともに、地域人材などの地域資源と連携し、運動・スポーツ施策の充実を図る必要があります。
		職場体験学習の推進	指導課	学校教育の一環として、職場体験や農漁業体験、商業体験などを推進します。	民間企業や幼稚園、認定こども園、保育所などで職場体験学習を実施、「働く」ことのイメージを持つとともに人の役に立つことで、自己有用感を育てることができました。 ・小津中学校では、修学旅行で民泊した際、田植えを体験し、農業に従事する人々の苦労や喜びを学ぶことができました。また、収穫後の米で作ったおにぎりを後輩に配付するなど自己有用感の向上を図る取組みを行いました。	・職場体験学習中の安全確保と安全管理。 ・職場体験受け入れ先の確保。
		インターンシップ制度の推進	人権くらしの相談課	関係機関との連携強化と情報提供媒体の拡充を行うなど、インターンシップ制度のより効果的な普及・啓発を進め、利用促進を図ります。	・大阪府等の関係機関と連携し、職場実習等についての冊子等を用いて啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに情報提供媒体の拡充を行い、インターンシップ制度の推進に向けたより効果的な普及・啓発活動を検討する必要があります。
		地域就労支援事業の推進	人権くらしの相談課	国・府及び関係機関との連携のもと、早期の就職を促すよう「泉大津市地域就労支援事業」の推進を図ります。	・若年者等の就職困難者に対して相談員による就労相談を行うとともに、ハローワーク等の関係機関と協働で、就職情報フェア及びセミナーを開催しました。	・就労相談窓口の更なる周知を図るとともに、関係機関との連携を強化し、若年者等の就職困難者が就労に結びつくためのより効果的な施策を検討し、就労支援事業を推進していきます。
		職業能力開発のための支援体制の充実	人権くらしの相談課	職業能力の開発への支援策の充実と雇用の安定を図ります。	・大阪府や職業訓練校等の関係機関と連携し、職業能力開発のための支援体制の充実に努めました。	・関係機関が行っている職業訓練等の情報提供を充実させるなど、職業能力開発へのより良い支援体制のための施策を検討する必要があります。
	「大人が変われば、子どもも変わる運動」の推進	スポーツ青少年課	大人自身が姿勢を正し、モラルの向上に努めながら、地域の教育力を高める取り組みを推進します。	・PTA、自治会、子ども会、青少年指導員などの関係団体の代表者で組織する青少年の健全育成に関する総合的施策を審議する青少年育成協議会において、青少年の健全育成をめざした重点目標の3つのうちのひとつ「大人が進んで、モラルやマナーを守りましょう」についての取り組みや課題などの情報共有を行いました。	・引き続き、青少年育成協議会で設定した青少年の健全育成をめざした重点目標に沿って、各団体においてはそれぞれの立場で実践してもらうために啓発を進める必要があります。	

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
	④社会 環境の 向上	社会環境の 点検活動の 推進	スポーツ青少年課	有害図書類の販売等の状況の調査や遊興施設など、社会環境の悪化につながる場所の実態把握等の推進に努めます。	・青少年指導員から選抜された青少年環境整備啓発推進員が、有害図書類の販売等の調査と遊興施設を訪問し社会環境実態調査を行いました。	・引き続き年1回、社会環境実態調査を行う予定です。
		青少年育成 協議会の設 置	市民協働推進課 社会福祉協議会 指導課 スポーツ青少年課	青少年の育成、指導、保護に関わる団体や関係機関、有識者による青少年育成協議会において、青少年に係る問題について総合的に審議し、方針や目標を設定し、各団体との連携を促します。	・青少年育成協議会が設定した3つの重点目標に関連した取り組みや課題などの情報共有を行いました。 ・青少年育成協議会に参画し、泉大津市こどもサポートセンターやセーフコミュニティ・こどもの安全対策委員会の取り組みについて協議し、今後の推進を図りました。	・泉大津市こどもサポートセンターやセーフコミュニティ・こどもの安全対策委員会との連携を強化します。 ・引き続き、青少年育成協議会で設定した青少年の健全育成をめざした重点目標に沿って、各団体においてはそれぞれの立場で実践してもらうために啓発を進める必要があります。
①周産 期及び 小児医 療体制 の充実		地域周産期 母子医療セ ンターの充 実	市立病院事務局	NICU、GCUの運用を継続するとともに、受入週数の拡大を図ります。	平成29年度 NICU 延患者数 1,141人 平成29年度 GCU 延患者数 577人	引き続きNICU、GCUを運営し、集中治療や看護が必要な新生児等への対応を行います。
		小児救急体 制の推進	健康づくり課 市立病院事務局	市医師会による夜間電話相談、泉州北部小児初期救急広域センター(休日)、泉州地区小児科救急輪番体制(夜間)により対応します。	・平成29年度 患者数:泉州北部小児初期救急広域センター 11,621人、泉州地区小児科救急輪番体制 13,655人	・各市町村と連携し、体制の維持に努める必要があります。
		助産施設入 所事業	子育て応援課	経済的理由等により、入院助産を受けることができない妊産婦を入院させることにより、出産家庭の生活の安定と児童福祉の増進を図ります。	・児童福祉法に基づき、9件について助産施設に措置し、その費用を支弁することにより、経済的理由により入院助産を受けることのできない妊産婦の精神的・経済的負担を軽減し、安心して出産できる環境を提供することができました。	・今後も、児童福祉法に基づき、適切に措置していく必要があります。
		不妊に悩む 方への 特定治療助 成	子育て応援課	特定不妊治療に要した費用のうち大阪府の助成金を控除した額について限度額内で助成します。	・同一夫婦に対して、妻の年齢が40歳未満の夫婦には年間制限なしの通算6回まで、妻の年齢が40歳以上43歳未満の夫婦には年間制限なしの通算3回までの助成を行いました。助成額は、特定不妊治療1回に要した費用のうち府助成金の額を控除して得た額とし、5万円を限度としました。 平成29年度年間助成件数 70件	・今後も府の制度に合わせ、不妊に悩む方の経済的負担の軽減を図る必要があります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		母子健康手 帳の発行	子育て応援課	母子の一貫した健康管理と健康保持のため、妊娠から出 産、育児の記録となる手帳を交付します。 交付時には、妊娠中や子育ての不安軽減を図るための相 談や情報提供を実施します。	・妊娠届出時にすべての妊婦に保健師による面接を実施しま した。(母子健康手帳交付数569件) 妊娠期からの早期支援を行うことにより、妊娠中及び子育て の不安軽減を図ることができました。また、市内保育コンシ ェルジュと連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目ない相談支 援体制の充実を行いました。	・妊娠期から、早期に支援を開始できる体制づくりを 継続して取り組む必要があります。
		両親教室 (たまごくら す)	子育て応援課	妊娠中の夫婦を対象に、妊娠・出産・育児に関する知識の 普及や地域での仲間づくりを実施します。	・1コース4回(年間4コース)開催しました。また、パパ講座を 両親教室の内容に組み込み、事業化しました。 参加者数 延209名	・妊娠期から、早期に支援を開始できる体制づくりを 継続して取り組む必要があります。
		妊婦・産婦・ 乳幼児訪問 指導・支援 の充実	子育て応援課	子育てに不安や負担を感じている妊産婦や乳幼児を持つ 保護者の自宅に、助産師や保健師が訪問し、親子の健康 管理や育児相談を行います。	・支援が必要な妊産婦に適切な支援が行えるよう、家庭訪問 を実施しました。 訪問件数 妊産婦657件 乳幼児668件	・妊娠期から、早期に支援を開始できる体制づくり に継続して取り組む必要があります。
		妊婦・産婦 相談の充実	子育て応援課	妊娠・出産・育児の不安など、保健師が電話や窓口で相談 を実施します。また支援の必要な妊婦への電話相談を助産 師が実施します。	・妊娠届出時にすべての妊婦に保健師による面接を実施す ることで、妊娠中及び子育ての不安軽減を図ることができま した。また、妊娠初期、中期、後期の妊婦を対象に「妊娠応援 レター」を送付し、妊娠期～子育て期の切れ目ない相談支援 体制の充実を行い、不安の軽減が図れました。 妊婦・産婦相談数 延850件(電話81件 面接769件) 乳幼児育児相談数 延469件(電話319件 面接150件) 妊娠応援レター初期:569通 中期:592通 後期:616通	・出産～産後は不安が高くなるため、不安を軽減で きるサービスが必要と考えられます。
		乳幼児健康 診査の充実	子育て応援課	4か月児・1歳6か月児・3歳6か月児を対象に疾病の早期 発見・発達の確認に取り組むとともに、親子の交流など育児 支援の充実を図ります。 また、健康診査の結果で疾病や心身の発達に支援が必要 な場合は、医療機関を紹介します。	・4か月児健診 年間18回開催 受診者数589人 受診率 96.9% ・1歳6か月児健診 年間18回開催 受診者数561人 受診率 94.3% ・3歳6か月児健診 年間12回開催 受診者数540人 受診率 92.5% ・健診の待ち時間にティーサロンをおこない、受診・相談しや すい体制づくりを行いました。また、未受診者へは、案内文を 再送付し、家庭訪問なども行いました。	子どもの健やかな発達と子育て支援のため、さらなる 健診の受診率向上に取り組む必要があり、特に、3歳6か月 児健診の受診率向上に取り組む必要があります。

基本施策	推進施策	主な施策・事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
3-1 妊娠・出産及び乳幼児期の親子の健康づくりの推進	②妊娠期から子育て期の健康づくりの推進	育児相談の充実	子育て応援課	「7か月児育児相談」「乳幼児育児相談会」を月1回定例で実施します。 また、「発達相談」「栄養相談」「歯科相談」も実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「7か月児育児相談」「乳幼児育児相談会」では食のサロン(離乳食の展示・相談)や子育て広場の併設を行うなど、気軽に参加できる体制で実施しました。また、平成28年4月から、2歳6か月児歯科健診時に2歳6か月児育児相談会を同時開催し、育児相談を通して育児不安の軽減を図ることができました。</li> <li>・7か月児育児相談 相談数408人</li> <li>・2歳6か月児育児相談 相談数492人</li> <li>・乳幼児育児相談会 来所者数99人</li> <li>・発達相談1,083件(延べ)</li> </ul>	・ライフステージに応じた相談体制の充実を図る必要があります。
		予防接種事業の充実	子育て応援課	予防接種法による定期接種を実施するとともに、接種率の向上と法改正による制度変更などの周知に取り組みます。感染症や疾病の予防に向けて、正しい知識の啓発や情報提供に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもには赤ちゃん訪問時や乳幼児健診の面談時に予防接種の内容やスケジュールを説明し、正しい知識の普及や啓発を実施しました。</li> <li>また、電話での相談や問い合わせなど丁寧に対応し、適切な情報提供が行えました。</li> </ul>	・法改正や感染症の蔓延に伴う対応と、適切な情報提供などを、適宜実施できるように取り組む必要があります。
		親子の交流や相談の場の充実	子育て応援課	保健センターにて、びよびよくらぶ、赤ちゃん広場、1・2・3みんなの広場などを開催し、親子で交流できる場を提供します。 民生委員・児童委員・子育て相談員などによる見守り、専門職種による相談を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・びよびよくらぶ 開催回数22回 参加者数 延657人</li> <li>・赤ちゃん広場 開催回数11回 参加者数 延118人</li> <li>・1・2・3みんなの広場 開催回数21回 参加者数 延304人</li> <li>・市内子育てコンシェルジュと連携し、情報交換しながら、広場における相談支援体制の充実を図りました。</li> </ul>	・保健センターで開催している子育て広場、地域で開催しているおやこ広場などを、保護者がニーズにより選択して参加できるよう、情報提供やさらなる周知を図ることが必要です。
		乳児家庭全戸訪問(こどもには赤ちゃん訪問)事業の実施	子育て応援課	生後1～2か月頃の乳児がいる家庭を対象に、看護師、助産師などがすべての家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や育児相談を行います。 各年度で見込んだ人数全員に実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもには赤ちゃん訪問の実施により、子どもの発達や育児状況を確認するとともに、市内の子育て情報や予防接種の情報提供を行いました。また、平成28年1月から、訪問家庭全数に産後の母のこころの状況を把握するための質問票を利用し、相談しやすい支援体制の充実に取り組みました。</li> <li>訪問件数572件</li> </ul>	・訪問実施が子育て不安の軽減につながっているかなど、評価にむけて取り組む必要があります。
		親子の健康づくりの充実や親子のふれあいの促進	スポーツ青少年課	公民館や総合体育館、図書館などの社会教育施設において親子の体力づくりや親子のふれあいを推進するための事業を実施するとともに、親同士の交流の場づくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合体育館においては、教育委員会が委嘱しているスポーツ推進委員と連携し、民間資源を活用しながら親子対象の運動教室を実施しています。また、家庭での体づくりを支援するため、運動・スポーツにおける親学習講座を実施しました。</li> </ul>	・総合体育館においては、引き続き親子対象の運動教室を実施しながら、内容の充実を図ります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		子育て世代 の健康づく りの推進	健康づくり課 スポーツ青少年課	子育て世代を対象に一時保育付の運動教室を実施します。 運動教室に保健師・栄養士による育児相談を併設するな ど、内容の充実に努めます。	・保健センターで「リフレッシュ・ヨガ」を実施しました。 年間3回開催 参加者数180人(内保育利用者数72人)。 また、子育て世代の健康づくりの充実に図るため、3歳6か月 児健診時に希望者に骨密度測定を実施しました。 ・総合体育館で一時保育付きの講座を開設し、子育て世帯の 健康づくりを図りました。	・子育て世代の健康づくり事業について評価を実施 し、子育て世代の健康づくりにアプローチする運動 教室を継続して取り組む必要があります。
		妊婦健康診 査、マタニ ティ歯科健 診の充実	子育て応援課	妊婦やお腹の中の赤ちゃんの健康管理、疾病の早期把握 とその対応、妊娠、出産、育児に関する相談を関係機関と 連携して実施します。 妊娠、出産の経済的負担の軽減を図るため、妊婦健康診査 の助成額の改善を図っていきます。 妊婦健康診査は、各年度で見込んだ人数全員、回数に対 応する体制を構築し、実施します。	妊婦健診受診者 実人数994人 延人数7,423人 マタニティ歯科健診 受診者数142人	・マタニティ歯科健診の受診率の向上のため、周知 の強化に取り組む必要があります。
		養育支援訪 問事業の推 進	子育て応援課	養育に支援が必要な家庭を訪問して、養育に関する相談、 指導、助言を行います。 各年度で見込んだ人数に対応する体制で実施します。対象 者が見込み以上にいる場合は、関係機関とも連携を図りな がら対応します。	・養育に支援が必要な産婦に訪問を実施し、保健指導や育 児支援を行いました。 また、関係機関との連携が必要な場合は、連絡をとり支援を 行いました。 訪問件数：96件	・養育に支援が必要な産婦には、早期に支援が開 始できるよう、関係機関との連携を強化していく必 要があります。
		食育に関係 する事業の 推進と活動 の支援	こども育成課 健康づくり課 環境課 教育政策課 指導課	食育推進計画に基づき、農業体験、親子クッキングなど体 験活動を通じた取り組みを実施します。 食育パネル展示会の開催や乳幼児健診時の食育シール ブック配布など啓発を強化します。 保・幼・認・小・中学校においても、食育に取り組みます。 食育推進委員会を中心に保健・福祉・教育など関係機関や 団体と連携を図りながら、食に関する情報提供や食の体験 活動に取り組みます。	・就学前施設では、野菜を栽培し、実りの様子を学び、収穫し たものをクッキング活動として、給食で提供しています。 ・給食試食会を開催し、食育について保護者への啓発を行っ ています。 ・平成27年3月に策定した第2次泉大津市食育推進計画に基 づき事業を実施、「わくわく食育体験」をはじめ、ライフステー ジに応じた食育推進として「学童・思春期のお弁当講座」を実 施しました。 参加者数：「わくわく食育体験」夏休みイベント60名(21組)・ 植え付け祭94人(33組)・収穫祭50人(19組)・親子クッキング 40人(13組)「学童・思春期のお弁当講座」7人 平成30年2月に市役所ロビーにて食育展を開催し、パネル展 示をはじめ、保健、福祉、教育関係や各団体の取り組みな ど、市の食育の取り組みを市民に周知しました。 ・小・中学校における食に関する指導の全体計画に基づい て、教科、給食時や特別活動等において食の指導を実施し、 また給食日よりや保健日より等を通じて食育に取り組みまし た。	・食育に関して保護者への情報提供が必要です。 ・体験活動を参加しやすい形にすることで新規参加 者を獲得し、食育への関心層増加をめざすとと もに、子どもの時期から生活習慣病予防やがん予防 などに取り組むことが出来る、市全体の仕組みが必 要と考えられます。 ・今後も引き続き各種取組を推進します。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
	③幼児 期から の正しい食 習慣の確 立	小児期から の生活習慣 病予防対策	子育て応援課	家族ぐるみで生活習慣病予防に取り組めるよう、乳幼児健診や定期健診時の集団指導や講話、栄養士による個別栄養指導を行います。	・乳幼児健診や地域子育て支援センターなどの出前講座などで、健康指導や栄養指導、講話を実施しました。また、「幼児食・料理教室」や「幼児期のお弁当講座」、子育て世代の健康づくり推進事業においても実施しました。	・子どもの時期から生活習慣病予防やがん予防などに取り組むことができる、市全体の仕組みが必要と考えられます。
		歯科保健の 充実	子育て応援課	歯科疾患の予防、早期把握と対応のため1歳6か月児、3歳6か月児健診時において歯科健診を実施し、歯についての相談や歯みがき指導などを行います。	・1歳6か月児健診、3歳6か月児健診において歯科健診を実施し、希望者及び必要な親子には、個別相談や歯みがき指導を実施しました。また、健診の前には、集団指導(講話)を行い、生活習慣の見直しも含めた指導を行いました。	・健診の受診率向上と、むし歯予防の啓発を図る必要があります。
		よい歯を育 てる会の充 実	子育て応援課	2歳児、2歳6か月児、3歳児に対し、歯科健診を実施し、むし歯予防の講話を通じて保護者への啓発を行います。	・受診者数 2歳児歯科健診(フッ化物塗布):439人 2歳6か月児歯科健診(カリオスタット検査):491人 3歳児歯科健診(フッ化物塗布):369人。 歯科健診及びカリオスタット検査やフッ化物塗布、歯科の講話など、齲歯予防のための生活習慣の見直しや指導を行いました。	・健診の受診率向上に向け、案内の方法など周知方法や内容の充実を図る必要があります。
①情報 提供体 制の充 実		情報ガイド ブックの改 訂	子育て応援課	子ども・子育て支援法に基づく新事業体系の開始に合わせて、保健・医療・福祉・教育・労働の各分野で実施している子育て支援をまとめた「いずみおおつ子育てガイドブック」を改訂・配布します。	民間事業者の協力により、子育て世帯にとって必要な行政情報をわかりやすくまとめた「いずみおおつ子育てガイドブック」を改訂し、母子手帳交付時や本市への転入者のほか、各就学前教育・保育施設のすべての保護者に配布しました。	妊娠期から出産、就学まで子育て世帯にとって必要な行政情報をわかりやすく伝えられるよう、最新の情報に更新し、内容の充実を図っていきます。
		情報提供方 法の多様化	子育て応援課	必要とする情報が必要な時に確実に届くよう、子育て支援ホームページの充実により情報提供の多様化と広報に取り組みます。 子ども・子育て支援法に基づき、保護者が産休・育休明けの希望する時期に、円滑に教育・保育施設、地域型保育事業を利用できるよう、休業中の保護者に対して情報を提供します。	子育てに関する情報発信の充実を推進するため、子育て関連情報を集約・一元化したポータルサイト「おづみんねつと」、「子育て応援アプリ」を運用しています。	より多くの市民に利用してもらえるよう周知に努めるとともに、情報の鮮度を保ち、内容の充実を図っていきます。
		情報の共有 化と提供の 推進	子育て応援課	要保護児童対策地域協議会において、子育てに関する法制度や子育てに役立つ最新情報の共有を図り、各活動を通じての提供を推進します。	年に1回の代表者会議、2回の実務者会議を実施。会議においては各関係機関から活動内容の報告や、子育てに関する法制度の情報提供が行われ、情報の共有と提供の推進に資することができました。	各関係機関との日常的な情報共有を図り、連携のさらなる強化を図る必要があります。
		子育てサー クルの支援	子育て応援課	おやこ広場における情報提供等、子育てサークルの活動を支援します。	おやこ広場間で子育て情報を共有し、相談支援体制の充実に努めました。子育てサークルに関する相談は1件ありました。	おやこ広場間における連携に努め、子育てサークルへの支援の充実を図る必要があります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
②身近な 地域での子 育て支援活 動の充実		多様な交流 機会や場の 確保	こども育成課	おやこ広場(つどいの広場)、親子で遊ぼう会、保育所・幼稚園・認定こども園の園庭開放の充実を図り、身近で安全な遊び場や交流機会の拡充、家庭での子育てを支援します。 各園・所において、地域とのつながりを深める取り組みの充実を図ります。	・おやこ広場の運営について、実施回数966回、来所した保護者数12,907人、来所した子ども数16,347人となり、子育て家庭の交流及び育児負担の軽減に資することができました(全て延数)。	・親子で遊ぼう会、園庭開放等について、来所者数の増加を目指し、より分かり易い周知方法へ改善を図る必要があります。
		地域子育て 支援セン ターの実施	子育て応援課	おやこ広場、子育て講座、子育て相談などを開催し、保護者の相談支援とともに、子育てサークルや子育てリーダーの育成と支援を推進します。 実施にあたり、地域のボランティアや関係団体と一層の協力を図ります。	たんぼつぽおやこ広場の実施回数285回、来所者数7,258人(保護者3,315人、子ども3,943人)、子育て相談件数671件(おやこ広場来所者からの相談583件、電話相談88件)、地域活動支援129回、子育て講座受講者数174人(89組、子ども85人)、子育て家庭に対する全般的な支援に資するものとして、多様な子育てサービスの充実を図ることができました(全て延べ数)。民生委員がおやこ広場に毎週2回参加し、子ども達と交流しつつ安全な運営に努めました。	地域子育て支援センターについて、市内各おやこ広場の中心的な役割として機能することで、各おやこ広場の子育て支援の充実を目指す必要があります。
		民生委員・ 児童委員 (主任児童 委員)活動 の推進	福祉政策課	地域ぐるみの子育て支援の中心的役割を担うため、法制度の改正や最新情報を身に付けるための定期的な研修を実施します。	・母子児童福祉部会は、おやこ広場への協力、主任児童委員連絡会はこども家庭フォーラムの開催や教育ネットへの参加等に取組みました。また、協議会としても「社会的養護の子どもたちと里親制度について」研修を行いました。 第二水曜日の夕方から社会福祉協議会と連携し「こども食堂」を実施しました。	引き続き活動方針、具体的方針に沿い子育て支援を行うとともに、各地域で本来支援が必要な子ども達に支援が行えるよう取り組みます。
		保育所・幼 稚園・認定 こども園・学 校における 相談体制の 充実	こども育成課 指導課	子育ての専門知識を有する職員による相談支援、情報交換の場として機能の充実を図ります。	・保育コンシェルジュ(基本型、特定型)が各保育所、幼稚園、認定こども園、保健センター等の関係機関と連携し、子育てについての悩みや就園、保育所の選択等、きめ細やかな内容の情報提供や相談体制を構築することができました。	・子育て世代が必要とする情報を収集し、より身近な場所で相談が気軽に受けられる体制づくりが必要です。
		地域コー ディネー ターの推進	指導課 スポーツ青少年課	各地域教育協議会(すこやかネット)に地域コーディネーターが積極的に参加できるように地域のネットワークづくりを推進します。	・大阪府の地域コーディネーター研修への参加。 ・PTA、子ども会、青少年指導員など各種団体が地域教育協議会(すこやかネット)に参画し、地域のネットワークづくりを推進しました。	・地域人材の安定的な確保。 ・引き続き、PTA、子ども会、青少年指導員など各種関係者として地域教育協議会(すこやかネット)に参画し、地域のネットワークづくりを進める必要があります。
	地域教育協 議会(すこ やかネット) 活動の充実	指導課	各地域教育協議会(すこやかネット)が中心となり、親子の体験活動や子どもの地域活動への参画促進、家庭教育への支援などを通じて、教育コミュニティの充実を図ります。	・泉大津市地域教育連絡協議会総会 ・各中学校区地域教育協議会の主な活動として、東陽フェスタ、星空観望会、歩こう会、歴史探訪会、ものづくり教室、科学実験教室、朝のあいさつ運動等を実施しました。	・地域人材の安定的な確保。	

基本施策	推進施策	主な施策・事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
3-2 身近な地域での子育て支援の充実	③自主的な子育て活動の活性化	小地域ネットワーク活動推進事業	福祉政策課	小地域ネットワーク活動において、地域ぐるみの子育て活動を実践していく機運づくりを促進します。	地区福祉委員会が、市健康推進課と連携して3歳以下の子どもとその保護者を対象に子育て支援「この指とまれ！」を実施し、福祉委員と市健康推進課の職員が対象者の子育て相談に応じたり、交流を図る等、地域における子どもと保護者の居場所づくりを展開しています。 実施箇所1カ所、実施回数11回、延べ参加者数140人	引き続き、他地区でも子育て支援が展開できるように働き掛けていきます。
		地域福祉計画の普及・啓発	福祉政策課	地域住民と行政が協力し、地域の中で安心できる生活支援の仕組みを創る地域福祉計画の理念の普及・啓発を通じて、地域ぐるみでの子育ての機運づくりを促進します。	地域における様々な福祉の活動やネットワークづくり・仕組みづくりを進めることで、「めくもりの手と手をつなぎともに支えあえる社会」の実現を目指すため、社会福祉協議会と連携し、第4次泉大津市地域福祉計画を、第3次泉大津市地域福祉活動計画と一体的に策定しました。	制度の狭間や複数の福祉課題を抱えるなど、既存の福祉サービスだけでは対応困難な事案の解決に取り組むCSWとの連携・協働を強化し、地域や各機関等の課題解決力の向上や地域・関係機関全体で支えるネットワークづくり・仕組みづくり及び計画内容の普及・啓発に取り組めます。
	④専門性の高い相談体制の充実	児童家庭相談体制の充実	子育て応援課	相談者に適切に対応するため、社会福祉士等を中心に相談員の研修、関係機関との連携強化により、相談指導体制の充実を図ります。	大阪府市町村児童家庭相談担当者スキルアップ研修への積極的な参加により、虐待の予防から子どもの自立までの支援等に対応できるための知識を習得することで、相談指導体制の充実を図ることができました。	相談に対する情報提供のみでなく、問題解決に向けて相談者と相談員が共に取組んでいくことが重要であるため、相談者と継続した関わりを築くことが課題となっています。
		関係機関の連携による相談機能の充実	子育て応援課	地域子育て支援センターでの電話相談に対応できる体制づくり、保健センターにおける育児相談、主任児童委員や人権擁護委員などとの連携を強化し、地域全体で子どもの権利を守るための支援を推進します。	・たんぽぽおやこ広場において、電話相談を実施し、延べ88件の相談を受けました。 ・民生委員児童委員会を通じて、意見交換を行い、保健センターにおける育児相談内容を共有することで、地域全体で子どもを見守る体制の構築に努めることができました。	地域から孤立した子育て家庭が生じないようにするために、関係機関との連携強化に努める必要があります。
		教育相談事業の充実	指導課	教育支援センターの専門相談員による教育相談、家庭教育支援相談、特別支援教育に係る専門家の相談等など、多様な相談に対応する事業の充実を図ります。	・教育支援センターの専門相談員による教育相談(臨床心理士、特別支援士) 337件 子どもの成長や発達に悩みを持つ保護者に対して、専門家が家庭や学校での適切な支援方法を助言することができました。	・子どもの成長や発達に悩みを持つ保護者はここ数年増加傾向にあった。昨年度は一昨年度に比べ若干減少したもののほぼ横ばい状態である。専門相談員の一人一人の負担は数年前に比べ増加しており、保護者のニーズに応えるのが困難な現状が続いているのが課題となっています。
		障がい児教育推進事業の充実(巡回教育相談、就園・就学時発達相談、就園・就学指導員)	指導課	小・中学校の特別支援学級に対する巡回発達相談、理学療法士による機能回復訓練、大学教員や臨床心理士などによる巡回相談など、障がいのある幼児の就学時及び就学後の教育相談体制を充実します。	・小・中学校の特別支援学級に対する巡回発達相談→167回 ・理学療法士による機能回復訓練→34回 ・リーディングスタッフによる相談事業→9回 ・大学教員や臨床心理士などによる巡回相談→各幼稚園年2回訪問	・支援学級に在籍する児童・生徒数は年々増加傾向にあり、巡回発達相談の対象児童・生徒数は5年間で約2倍近くに膨れ上がっているが、全体回数に限りがあることが課題となっています。理学療法士による機能回復訓練は一人当たりの回数が少なく助言だけで終わり、十分な継続的な訓練とは言い難い面があります。今後、児童・生徒の生活や学習の充実を図るためにも、見直しが必要です。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		相談員の資 質の向上	子育て応援課	多様化する相談内容に適切に対応できるよう相談員の研修の充実に努めます。	地域子育て支援センター相談員がコンシェルジュ会議に参加し、保健センターの新事業やおやこ広場のイベント情報について情報共有を図りました。また、地域子育て支援センター内においても毎月1回スタッフが集まり会議を実施し、来所者への対応方法等について見直し、情報共有を図りました。スタッフの子育てに関する知識を深め、相談支援の質の向上につなげることができました。 保育コンシェルジュと発達支援コンシェルジュが、各相談内容の情報共有を行い、知識を深め合うことで、多様化するニーズに応えられる相談体制の整備に資することができました。	他市の情勢や動向を把握することで、多様化する相談に対応できるよう努める必要があります。
		地域子ども・子育て支援事業の質の向上	こども育成課 子育て応援課	利用者意向の把握と実施事業者との情報共有を定期的に行い、より良い事業提供に事業者と連携して取り組みます。	子育て支援関係者会議を年に4回実施しました。各事業の報告、虐待ケースへの対応、BPプログラムやおしゃべりサロンの体験学習、妊娠・出産・子育てシームレスケアといった内容について、情報共有、課題の解決に向けて話し合いを行ったことで、より良い事業提供につなげることができました。	各おやこ広場から発信される子育て情報について、情報を集約して、どのおやこ広場においても市民が必要とする子育て情報が入手できるよう整備する必要があります。
		利用者支援事業	こども育成課	保護者等からの相談に応じ、子育てや教育・保育の利用に必要な情報の提供、助言などを含めた支援を行う事業です。 事業は、各教育・保育提供区域(中学校区)に1か所ずつ、及び、市社会福祉事務所の計4か所で行います。	・保育コンシェルジュ(基本型、特定制)、発達支援コンシェルジュ(母子保健型)が連携し、相談支援を行うことにより、妊娠出産、子育てを切れ目なく情報提供、助言等を行い、安心して子育てに結びつけることができました。	・市内の支援、情報を適切に利用者に提供できるように情報を収集し、発信できる体制を整備する必要があります。
		地域子育て支援拠点事業	子育て応援課	地域子育て支援センター事業の「たんぼっぼ」「おやこ広場」の充実を図りながら、各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。	・たんぼっぼおやこ広場の実施回数285回、来所者数7,258人(保護者3,315人、子ども3,943人)となり、子育て家庭に対する多様な子育てサービスの充実が図れました(全て延べ数)。 ・おやこ広場の実施回数1,291回、来所した保護者数15,130人、来所した子ども数17,338人となり、子育て家庭の交流及び育児負担の軽減に資することができました(全て延数)。	地域子育て支援センターが各おやこ広場のスーパーバイザーとして機能し、各おやこ広場のサービス充実につなげる必要があります。
		子育て短期支援事業	子育て応援課	保護者が、疾病・疲労など身体上・精神上・環境上の理由により児童の養育が困難となった場合等に、児童養護施設などにおいて宿泊を伴う養育・保護を行う事業です。 関係機関と連携を図りながら、各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。	関係機関との連携をとりつつ児童の養育が困難となった保護者への支援に努めた。	関係機関との連携に努め、児童の養育に困っている保護者へ適切に支援できるよう努める必要があります。

基本施策	推進施策	主な施策・事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
	⑤地域子ども子育て支援事業の提供体制の確保	子育て援助活動支援事業(ファミリーサポートセンター事業)	子育て応援課	子育ての手助けがほしい人(依頼会員)、子育てのお手伝いをしたい人(提供会員)、両方を兼ねる人(両方会員)が登録し、子育ての相互援助活動を行う事業です。提供会員の体制と質の向上を図りながら、各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。	依頼会員381人、提供会員90人、両方会員78人の会員数を獲得し、622件の預かり等の活動ができ、地域での子育て支援を図ることができました。	広報やチラシ等を活用して事業の周知を図り、会員数の増加を目指す必要があります。
		一時預かり事業	こども育成課	保護者のパートタイム就労や疾病・出産などにより保育が一時的に困難となった乳児又は幼児について、保育所その他の場所において、一時的な預かりを行う事業です。各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。	(幼稚園在園児) 平成29年度見込数 12,250人 平成29年度実績 15,608人  (幼稚園児在園児以外) 平成29年度見込数 1,863人 平成29年度実績 1,510人	引き続き見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。
		実費徴収に係る補足給付を行う事業	こども育成課	保護者の世帯所得の状況等を勘案して、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用又は行事への参加に要する費用等を助成する事業です。新制度における利用者負担は、国の定める所得に応じた水準を限度として市町村が定めることとされていることから、低所得者の負担軽減策の一つとして、必要に応じ、検討していきます。	・他の市町村の実施状況等を踏まえ、その実施について、調査、研究を行っています。	・他市町村の実施状況について調査、研究を継続し、適切に助成する必要があります。
		多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業	こども育成課	特定教育・保育施設等への民間事業者の参入の促進に関する調査研究のほか、多様な事業者の能力を活用した特定教育・保育施設の設置や運営を促進するための事業です。将来的に民間事業者の参入促進が必要となった場合に備えて、周辺自治体と連携して民間事業者参入に関する情報交換を行っていきます。	周辺自治体の状況について、調査・研究を行っています。	引き続き事例の情報収集を行い、調査・研究に努めます。
		休業中の保護者に対する情報提供の実施	こども育成課	子ども・子育て支援法に基づき、産休・育休中の保護者の保育希望を把握するとともに、健診などの機会を通じて、保育サービスの情報提供を行います。	保健センターで実施する乳幼児健診、歯科検診において、子育て支援事業のちらしや子育てガイドブックを保護者に配布し、保育サービスの情報提供を行いました。	引き続き、健診などの機会を通じ産休・育休中の保護者への情報提供を行っていきます。
		延長保育事業	こども育成課	保育所利用者を対象に、通常の延長保育時間以降に保育を希望する場合に提供する事業です。関係機関と連携を図りながら、現行体制で継続し、各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。	平成29年度見込数 161人 平成29年度実績 393人	引き続き各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。

基本施策	推進施策	主な施策・事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
3-3 働きながら 子育てする 人の支援の 充実	①子ども・子育て 支援法に基づく 事業の実施	病児・病後 児保育の条 件整備	こども育成課 子育て応援課	病気にかかっている子どもや回復しつつある子どもを医療機関や保育所の付設の専用スペースなどで一時的に預かる事業です。 関係機関と連携を図りながら、各年度で見込んだ人数全員を受け入れる体制で実施します。 また、受け入れ体制の強化に向けては、関係機関と継続的に協議します。	・受け入れ体制の強化を図るため、関係機関と協議を行ったほか、受入時の手続等について、できるだけ利用しやすい環境にするための検討を行いました。 ・平成30年4月開園のえびす認定こども園内に病後児保育を行える部屋を整備しました。	・関係機関との協議を継続し、受入れ体制の強化に努める必要があります。 ・えびす認定こども園内に整備した部屋で病後児保育を行うための人的体制の整備が必要です。
		仲よし学級 の充実	スポーツ青少年課	子ども・子育て支援新制度施行に伴い、利用者数の増加が予想される中で、安全・安心な放課後の居場所づくりのための施設整備や運営内容、低学年・高学年に配慮した活動内容やプログラムの創意工夫、障がい児対応などに向けて、小学校や関係部局とも連携を図りながら、職員の研修を充実させ、適切な運営に取り組めます。 また、子育て支援の充実を図るため、人材確保が必要であることから、地域人材を中心とした人材養成と効果的な活用を推進します。	・仲よし学級において、地域の人、社会教育団体、企業、関係部局などと連携し、遊びのプログラムを各校で行い、遊びの質の充実を図りました。 また、指導員は職員研修に積極的に参加し、低学年・高学年対応、障がい児の対応などを学び、安心・安全な放課後の居場所づくりを行いました。	・遊びのプログラムの継続的に実施するため、関係機関などと連携し、さらなる内容充実を図る必要があります。
		講演会や学 習会の開催	生涯学習課	受講者の確保を図りながら、望ましい家庭環境や子どもへの接し方、親育ちの大切さについて理解を深めるための講演会や学習会などを実施します。	・子どもと親の関係について理解を深める取組として、子どもを持つ親が子育てについて学習する親学習講座を、市内の幼稚園、小学校、中学校、社会教育施設で実施しました。	・受講者の確保を図りながら、望ましい家庭環境や子どもへの接し方、親育ちの大切さについて理解を深めるための講演会や学習会などを実施する必要があります。
		家庭教育学 級の充実	生涯学習課	乳幼児期の家庭教育に関する学習機会の提供、育児に関する情報提供や相談・交流などができる家庭教育教室・講座の充実を図ります。	・子どもを持つ親が子育てについて学習する親学習の取組を、市内の幼稚園、小学校、中学校、社会教育施設で実施し、親どうしの交流を深めました。	・公民館など社会教育施設を活用し、育児に関する情報提供や相談・交流などができるネットワークづくりを進めるとともに、気軽に参加できる親学習講座の充実を図ります。
		男性向け家 庭生活講座 等の開催	人権くらしの相談課 生涯学習課	男性の家事や子育てなど家庭生活への参加を促進するため、男性向けの料理教室や育児教室など、家事や子育てに関する知識・技能を身につける機会の充実を図ります。	・男性保護者とその子どもを対象とした手作りおもちゃ作成の講座をにんじんサロンにて開催し、子育て中の今だからこそできることを、楽しみながら考えてもらえる内容を盛り込みました。	・男女共同参画推進の拠点施設である「にんじんサロン」を、老若男女さまざまな市民に利用してもらえよう講座等の充実を図る必要があります。

基本施策	推進施策	主な施策・事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
3-4 男女が共同して取り組む子育ての推進	②男女共同参画に関する意識啓発の推進	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校における男女平等教育の推進	人権くらしの相談課 こども育成課 指導課	保・幼・認・小・中学校における男女平等教育の推進を図るため、教職員等への啓発活動を行います。	・人権主催者会、人権専門委員会、府の人権研修に参加し、男女平等教育の提供、セクシャルハラスメントの未然防止、人権尊重の教育に資することができました。	・引き続き、すべての校種において男女平等教育の推進を図るため、研修の内容等を充実していきます。
		「共に築く男女共同参画社会」の推進	人権くらしの相談課	男女共同参画社会の推進を図るための体制強化とともに、「共に築く男女共同参画社会」を目指すための学習機会の充実に努めます。	・男女共同参画交流サロン(にんじんサロン)において男女共同参画について理解を深める各種講座を実施。また、サロン登録グループメンバーによる自主的な学習会を支援し、サロンを周知するための講座も実施しました。	・さまざまな角度から学習機会の充実に努める必要があります。
		仕事と家庭的責任の両立支援	人権くらしの相談課	性別による固定的な役割分担意識の解消のための啓発の充実に努めます。	・フォーラムinいずみおおつにて気象予報士・防災士である正木明氏に「パパはお天気キャスター～子育て・家事できることから考えよう～」をテーマに講演会を開催し、性別による固定的役割分担意識を解消する内容を盛り込みました。 ・春休み小学生男女共同参画学習映画会にてディズニー映画「ズートピア」を上映し、性別による固定的役割分担意識解消の啓発に努めました。	・各種講座・イベント等を通じ啓発活動を継続する必要があります。
		育児休業制度・介護休暇制度などの普及・啓発	人権くらしの相談課	市内の事業所を対象に、育児休業や介護休業などを取得することへの理解と協力を得るため、パンフレットの配布や研修会などの充実に努めます。	・大阪府等の関係機関と連携し、育児休業制度・介護休業制度等に関する冊子等を用いて、制度の普及・啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、育児休業制度・介護休業制度等のより効果的な普及・啓発施策の検討を行う必要があります。
		男性の育児休業・介護休業取得に向けた事業主への働きかけ	人権くらしの相談課	企業に対し、子育ての社会的役割の重要性や家庭における男女共同責任の認識を浸透させる学習機会の充実とともに、育児休業や介護休暇など諸制度の男性の利用促進について啓発に努めます。	・大阪府等の関係機関が発行するパンフレット等により啓発を行いました。 ・事業所人権協議会を通じ、女性活躍推進法についての周知を行うとともに、事業主行動計画の策定を働きかけました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、男性の育児休業制度・介護休業制度の取得に向けて、より効果的な普及・啓発施策の検討を行う必要があります。 ・事業所人権協議会などと連携し、引き続き事業主への働きかけに努める必要があります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
③子育てと仕事を両立しやすい労働環境の推進		育児休業を取得した女性の職場復帰等に対する支援	人権くらしの相談課	「育児休業取得者に対する代替要員の確保及び原職等復帰を促進するための助成金制度」の利用について周知し、女性の就労支援を促進するよう、積極的に働きかけます。	・大阪府等の関係機関と連携し、育児休業制度等に関する冊子の配架、セミナーなどを実施し制度の普及・啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、育児休業制度等のより効果的な普及・啓発施策の検討を行い、女性の就労支援を促進するよう働きかける必要があります。
		再雇用制度導入への働きかけ	人権くらしの相談課	育児休業など各種制度の定着と利用しやすい環境づくりとともに、再雇用制度の導入などへの働きかけのための広報・啓発活動の充実を図ります。	・大阪府等の関係機関と連携し、再雇用制度等に関する冊子等を用いて、制度の普及・啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、再雇用制度等のより効果的な普及・啓発施策の検討を行う必要があります。
		事業所内保育所設置への働きかけ	人権くらしの相談課 こども育成課	市内の事業所を対象に、勤務が不規則な就業者の家庭の子育てを支援するため、事業所内保育所の設置への働きかけに努めます。	・大阪府等の関係機関と連携し、事業所内保育所設置等に関する冊子等を用いて啓発に努めました。 ・平成29年度について、新規設置はありませんでした。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、事業所内保育所設置等のより効果的な促進施策の検討を行う必要があります。
		ファミリーフレンドリー企業の普及・啓発	人権くらしの相談課	市内の事業所を対象に、就労者が家庭生活と仕事を両立しながら十分に能力を発揮して働くことができる人事労務管理の必要性を啓発するとともに、就労者の家庭と仕事の両立に十分配慮し、多様かつ柔軟な働き方の選択を可能とするよう、企業に働きかけます。	・大阪府等の関係機関と連携し、仕事と家庭の両立等に関する冊子等を用いて、ファミリーフレンド企業の普及・啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、ファミリーフレンド企業のより効果的な普及・啓発施策の検討を行う必要があります。
		労働時間短縮への働きかけ	人権くらしの相談課	市内の事業所を対象に、労働時間短縮を促進するため、国・府の普及パンフレットや資料の配布などにより、週40時間労働制やサービス残業の防止などに関する啓発・広報活動に努めます。	・大阪府等の関係機関と連携し、ワークライフバランス等に関する冊子等を用いて、制度の普及・啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、労働時間短縮に向けたより効果的な普及・啓発施策の検討を行う必要があります。
		勤務形態の多様化への働きかけ	人権くらしの相談課	市内の事業所を対象に、家庭と仕事の両立を図り、ゆとりある生活が送れるよう、フレックスタイム制や子育て期の短縮時間勤務、在宅就労など多様な勤務形態導入を働きかけます。	・大阪府等の関係機関と連携し、勤務形態の多様化等に関する冊子等を用いて、制度の普及・啓発に努めました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、勤務形態の多様化に向けたより効果的な普及・啓発施策の検討を行う必要があります。
		児童手当支給事業	子育て応援課	子育て家庭における生活の安定と児童の健全な育成を図るため、児童を養育する人に手当を支給するもので、制度の広報・普及に努めるとともに、国・府に対し、制度の充実についての働きかけに努めます。	・児童手当法に基づき、延べ114,593人の児童に対し、1,252,520千円の児童手当を適切に支給しました。	・今後も、児童手当法に基づき適切に支給し、受給漏れのないように周知していく必要があります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
①各種 手当・ 費用助 成の支 給		児童扶養手 当支給事業	子育て応援課	父母の婚姻解消等により、父親と生計を同じくしていない児童の母などが、その児童を監護・養護している場合、その母などに手当を支給する事業で、国・府に対し、制度の充実についての働きかけに努めます。	・児童扶養手当法に基づき、757人(年度末時点)の受給者に対し、400,331千円の児童扶養手当を適切に支給しました。	・今後も、児童扶養手当法に基づき適切に支給し、不正受給がないように調査、処理していく必要があります。
		幼稚園の就 園奨励	こども育成課	入園料及び保育料の納付が経済的に大きな負担となる方を対象として、一定の所得以下の方に対して保育料等の減免補助を行います。	・平成29年度補助件数 3件 ・平成29年度補助金額 180,000円	私立の幼稚園が子ども・子育て支援新制度に移行しつつあるので、補助件数は減少していく見込みです。
		小・中学校 の就学援助	指導課	経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な家庭に、学用品費・通学用品費・学校給食費など学習に必要な費用の一部を援助しており、「広報いづみおおつ」等での普及に努めます。	・経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な家庭に、学用品費・通学用品費・学校給食費など学習に必要な費用の一部を援助しており、「広報いづみおおつ」等での普及に努めました。 また、所得金額判定の借家世帯基準に加えて持家世帯基準を追加し拡充を行いました。 さらに、小学校6年生児童の希望者に対し、入学準備金の中学校入学前支給を行いました。	・引き続き、経済的な理由で、公立小・中学校の就学が困難な家庭に、学用品費・通学用品費・学校給食費など学習に必要な費用の一部を援助しており、「広報いづみおおつ」等での普及に努めていく必要があります。
		子ども医療 費助成事業	子育て応援課	医療費の助成を行うことにより、子どものいる家庭の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを行います。制度の普及・啓発と内容の充実に努めます。	・入院の医療費助成について、平成28年4月診療分から、対象年齢を小学6年修了から中学3年修了までに拡充し、子どものいる家庭の経済的負担をさらに軽減することができました。また、平成30年4月から通院医療費助成を小学6年修了から中学3年修了までに拡充しました。	・今後も子ども医療費助成の対象者に対し適切に制度の案内を行っていくよう努めていきます。
		ひとり親家 庭医療費助 成事業	子育て応援課	医療費の助成を行うことにより、ひとり親家庭の保護者の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを行います。制度の普及・啓発に努めます。	・ひとり親家庭医療費の助成対象者に対し、ひとり親家庭医療証を適切に発行し、医療費の一部を助成することにより、ひとり親家庭の経済的負担の軽減を図ることができました。	・今後も引き続き、ひとり親家庭医療費の助成対象者に対し、適切に制度の案内を行っていくよう努めていきます。
		障がい者医 療費助成事 業	障がい福祉課	医療費の助成を行うことにより、障がいのある人の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを行います。制度の普及・啓発に努めます。	・障がい者医療の対象者(①1～2級の身体障がい者手帳所持者(児)・重度の知的障がい者(児)②中度の知的障がい者で身体障がい者手帳所持者(児))による受診は、14,258件あり、平成29年度において、97,623,636円の助成を行いました。	・医療費助成制度を継続し、障がいのある人の経済的負担の軽減を図ります。
		快適な住環 境づくりの 促進	建築住宅課 都市づくり政策課	良好な住宅の誘導や供給、土地取引などの適正な指導に努め、快適な居住環境を誘導します。	都市計画法、建築基準法、国土利用計画法に基づき、適切な指導を行い、快適な居住環境の誘導に努めました。	引き続き、都市計画法、建築基準法、国土利用計画法に基づいた誘導、指導を行う必要があります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
	②住宅 対策の 促進	居住者の健康を脅かす新たな問題への対応	建築住宅課	シックハウス症候群など、住宅に起因する健康被害に対する情報提供に努めます。	住宅に起因する健康被害に対する相談はありませんでした。	必要に応じ情報提供を実施。
		市営住宅の整備・充実	建築住宅課	市営住宅の建替えに際し、子育て世帯向け募集を検討します。 市営住宅の建替えを計画的に行います。	年2回一般募集を実施しました。	住宅に困窮している低所得者のための市営住宅の老朽建替等を引き続き検討する必要があります。
③子育てにやさしいまちづくりの推進		大阪府福祉のまちづくり条例や法律の周知・指導	建築住宅課	「大阪府福祉のまちづくり条例」に基づいて、関係機関にバリアフリー化の推進を図る内容を周知し、積極的な指導・助言を行います。	開発や建築の機会を捉え、府条例に基づいた指導、事前協議を事業者と行いました。	引き続き積極的な指導・助言を行う必要があります。
		幼児2人同乗用自転車購入助成事業	環境課	幼児2人同乗用自転車購入費用の助成を行います。	・4月、8月(追加募集)、12月(追加募集)に助成金の募集を実施し、計73件助成しました。	・助成事業の周知 ・地球温暖化防止の一環であり、身近な環境を守り未来につながるまちに資すること。
		赤ちゃんの駅の設置促進	子育て応援課 公共施設所管課	公共施設、民間施設において、「赤ちゃんの駅」の設置を促進します。 (授乳コーナーやおむつ交換台の設置など)	赤ちゃんの駅市内地図をホームページに掲載し、看板で明示を行うことにより、安心して授乳やおむつ替えができるよう、子育て家庭の外出を支援しています。平成30年3月末時点で計42ヶ所の赤ちゃんの駅が登録されています。	引き続き「赤ちゃんの駅」の設置を促進し、子育て家庭の外出支援に努める必要があります。
		公共施設や道路のバリアフリー化の促進(福祉のまちづくり対策歩道改良事業を含む)	土木課 公共施設所管課	子ども連れでも安全かつ安心して外出できるよう、関係機関の連携のもと、既存の公共施設や道路の段差解消などバリアフリー化を促進します。	・平成29年度の施工箇所としては、段差改良が7箇所、視覚障がい者誘導ブロックの設置を7箇所行いました。	・平成30年度以降につきましても、道路のバリアフリー整備計画(2016)に基づき整備を進めていくが、計画的な施工を行うには、予算確保が困難な状況です。
		ユニバーサルデザインの視点に立った施設整備	公共施設所管課	新たに整備する施設などについては、ユニバーサルデザインの視点に立ち、子どもを含めたすべての市民が利用しやすい整備を促進します。	平成29年度はユニバーサルデザインの視点に基づき新たに整備する施設が無かったため、実績無。	・新たに公園施設の整備を行う際には、より多くの市民が利用しやすい整備を行う必要があります。 ・新たに整備する施設については、ユニバーサルデザインの視点に立ち、子どもを含めた全ての市民が利用しやすい整備を進める必要があります。

基本施策	推進施策	主な施策・事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
3-5 子ども と子育て 家庭が 安心して 暮らす 環境の 充実		ふれあいバス運行事業の推進	福祉政策課	高齢者、障がい者、妊産婦及び乳児連れの人を対象に、積極的な社会参加を促進するため、福祉施設等を循環するバスの運行を継続します。	平成29年度は、中回りコースが8月～12月まで運休していた影響もあり、年間乗車数は27,817人(対前年度比2,631人減)、一日当たりの平均利用者数は114人(対前年度比11人減)となりました。また、利用者アンケートや、乗降調査を実施し、ニーズの把握に努めました。	バスの運行を専門の事業者に委託することにより、より安全な運行を実施します。
		福祉タクシー事業の推進	障がい福祉課	身体障がい者手帳もしくは療育手帳所持者を対象に等級等に応じてタクシー利用料金の一部を助成し、障がいのある人の社会参加を促進します。	1,581人に福祉タクシー券を交付し、在宅の重度心身障害者(児)の生活行動範囲の拡大と社会参加を促進しました。平成29年度において、16,544,580円の助成を行いました。	福祉タクシー事業を継続し、在宅の重度心身障がい者(児)の生活行動範囲の拡大と社会参加を促進します。
		交通安全教育・啓発事業	土木課	子どもが正しい交通ルールを学び、交通事故の防止につながるよう、保・幼・認・小・中学校において、交通安全教室や啓発活動を推進します。	市内の保・幼・認・小・中学校を対象とした交通安全教室開催実施施設数 27/対象施設 30 受講率 90% セーフコミュニティ交通安全対策委員会主催のなかよし学級交通安全教室開催 4回	教室内容の充実を図り、わかりやすい交通安全指導に努めます。また、泉大津市セーフコミュニティ交通安全対策委員会と連携し、交通安全教室の開催回数の増加と受講率の向上を目指します。
		シートベルト、チャイルドシートの正しい使用	土木課	自動車運転時の事故による死亡率を軽減するため、シートベルトの着用義務及びチャイルドシートの正しい使用について、あらゆる機会・媒体を通じて積極的に広報・啓発活動を展開します。	【講習会】運転者講習会 8回 【街頭啓発】泉大津駅前での街頭キャンペーン 4回	引き続き、所轄警察署と協働で自動車利用者に向けた啓発を続けてまいります。
		通園・通学路の安全確保の推進	市民協働推進課 こども育成課 土木課 教育政策課 指導課	通園・通学路の安全点検を実施するとともに、子どもや車いすに配慮した段差の解消などのバリアフリー化や防犯灯及び防犯カメラの設置を促進するなど、通園・通学路の安全確保を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路等への防犯カメラの設置促進として、自治会が防犯カメラを設置する際の補助金を交付するとともに、市も主な公園施設及び公共施設へ防犯カメラの設置を進めました。また、防犯灯についても自治会に対する補助を行い防犯灯設置促進を行いました。</li> <li>通園路の危険箇所を点検し、保護者と共に交差点や横断歩道で交通安全指導を行いました。</li> <li>保育所、幼稚園、認定こども園で交通安全教室を実施しました。</li> <li>泉大津市通学路交通安全会議を開催し、通学路において交通事故の危険性がある箇所について対策を実施。対策内容については、市ホームページで公表している。</li> <li>バリアフリー化については、公共施設周辺のガードレール開口部や段差等の状態を確認し、事故の要因となりうる箇所については、施設管理者に適正管理を依頼した。</li> <li>スクールガードリーダーが登下校時、各小学校区を巡回。</li> <li>登下校時、市内11箇所に交通安全専従員を配置。</li> <li>こどもの安全見守り隊による見守り活動。</li> <li>小中学校において交通安全教室の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防犯灯、防犯カメラ設置を促進することで、更なる通園・通学路の安全確保に努める必要があります。</li> <li>引き続き、自治会に対する防犯カメラや防犯灯の設置補助及び市公共施設への防犯カメラの設置を進める必要があります。</li> <li>不審者への対応。</li> <li>関係機関と協力し、通学路の新たな危険箇所の把握に努め、対策を進めていくとともに、対策済箇所については効果検証を行い、適切な手法を模索していく。</li> </ul>

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
④交通 安全と 地域安全 対策の 充実		防犯・防災 対策事業の 推進	市民協働推進課 危機管理課 こども育成課 子育て応援課 教育政策課 指導課	コミュニティ組織による地域安全活動やセーフコミュニティを通じて、防犯・防災対策の促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯委員会による青色防犯パトロールの実施やセーフコミュニティ活動の一環として、自治会との連携により、地域の暗がり現地調査を実施し、防犯灯の設置促進や各戸門灯の点灯を呼びかける一戸一灯運動を推進しました。</li> <li>・セーフコミュニティ子どもの安全対策委員会として、子ども安全マップを作成する等の取組みを行いました。</li> <li>・セーフコミュニティ災害安全対策委員会で作成した「いずみおおつ版防災かるた」は好評につき増刷を行い、希望する自治会等へ配布しました。</li> <li>また、親子と一緒に防災について学び、防災意識の向上を図る催しとして「春休み親子防災イベント」を開催しました。</li> <li>・小中学校において関西大学城下准教授をアドバイザーとして防災学習を実施。</li> <li>・小中学校における非行防止・犯罪防止教室の実施</li> <li>・学校警察連絡協議会の開催・・・年間10回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いずみおおつ版防災かるた」の解説版、並びに「大判かるた」の作成を進め、より一層防災かるたの活用を促すことで防災意識の向上を図ります。</li> <li>・引き続き地域連携の強化や防災意識向上を目的とした取組みを企画、実施します。</li> <li>・地域と連携しながら一戸一灯運動等の防犯活動を推進します。</li> <li>・防災学習についての、教員の資質向上。</li> </ul>
		防犯灯補助 事業	市民協働推進課	地域における犯罪の未然防止と安全で明るいまちづくりを推進する。自治会等が設置する防犯灯の新設費及び維持費に対して補助金を交付します。	自治会間の境界などの防犯灯未設置区域への防犯灯の設置促進を図りました。また、維持費についても設置自治会へ補助金を交付しました。	引き続き、自治会等への防犯灯の設置及び維持に対する補助を行うなど、地域の中の暗く危険な場所への防犯灯の設置促進を図る必要があります。
		地域安全事 業の推進	指導課 スポーツ青少年課	各小学校区に設置されている「こども110番の家」の取り組みの充実を図るとともに、学校・地域・警察との連携を強化し、安全な地域コミュニティづくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「泉大津市こどもサポートセンター」による授業時間中や夜間補導活動。</li> <li>・不審者情報の共有化（メール配信、緊急FAX送信）。</li> <li>・Izumiotu City声かけチーム「TOGETHER」による見守り活動。</li> <li>・泉大津市小中学校生徒指導連絡協議会でのコンビニエンスストア関係者との懇談会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より活発な地域・ボランティア等との協働。</li> <li>・ボランティアの人的確保。</li> </ul>
		保育所・幼 稚園・認定 こども園・小 学校・中学 校の安全確 保を図る取 組みの推 進	こども育成課 教育政策課 指導課	保・幼・認・小・中学校の来訪者を確認できる対策をとり、児童生徒の安全確保を図る取り組みを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者情報の共有化（メール配信、緊急FAX送信）。</li> <li>・市内複数の小学校において不審者対応避難訓練の実施。</li> <li>・所轄警察と連携し、不審者避難訓練の実施予定。</li> <li>・昨年度に引き続き小学校の校門見守り設置することで、児童の安全確保を図ることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者避難訓練の反省を踏まえた対応策の改善、市内への普及。</li> <li>・組織的な対応への整備。</li> <li>・今後とも学校での安全確保を図る取組みを推進します。</li> </ul>

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		防災・災害 対策の充実	危機管理課 こども育成課 教育政策課 指導課	災害に関する理解を深め、生命の安全を図るため、避難訓練及び防災教育を保・幼・認・小・中学校で計画的に実施します。また、避難所となる小中学校や保育所・幼稚園などの防災対策の充実に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月5日(日)に開催した津波避難訓練に中学校のクラブ活動の生徒が参加し、津波発生時における水平避難訓練を実施しました。</li> <li>・1月28日(日)には穴師小学校を会場に避難所開設運営訓練を実施し、自主防災組織関係者をはじめ地域の方約80人が参加し、災害時の避難所開設及び運営手順を確認しました。</li> <li>・3月には各中学校を対象とした備蓄食料試食体験を実施し、生徒及び教員に災害対策用に備蓄しているアルファ化米の試食を行うことにより、被災時の生活のイメージを深め、防災意識の向上を図りました。</li> <li>・火災、地震、津波を想定した避難訓練を年間10回程度実施し、生命を守ることの大切さを知らせる保護者参加の訓練も実施し、防災意識を高めるよう努めました。</li> <li>・小中学校において関西大学城下准教授をアドバイザーとして防災学習を実施。</li> <li>・教職員対象に防災学習研修会を開催。</li> <li>・総合体育館の太陽光発電設備を設置、照明をLEDに更新し、大規模災害発生時に避難所となる総合体育館の機能の確保を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に子どもたちやその保護者世代の若年層に対し、楽しく学べる訓練として内容を工夫することにより、「防災」をなじみ深いものにし、継続的な訓練の実施により「減災」を促進する必要があります。</li> <li>・就学前施設における防災体制の点検を行い、職員の危機管理意識の向上を目指し、防災対策の充実に努める必要があります。</li> <li>・各校教諭による防災学習のさらなる実施。</li> <li>・組織的な対応への整備。</li> <li>・今後も地震等の災害発生時に避難場所となる施設の機能強化を図るための取組みを推進します。</li> </ul>
①生活 の自立 支援の 充実		相談支援体 制の充実	子育て応援課	ひとり親家庭に対し自立支援員や民生委員・児童委員及び母子福祉推進員が中心となり、相談相手や、親子交流の場づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援員を中心に、離婚前、離婚後の生活上の問題について相談を受け、適切に各種制度の案内や関係機関につなぐことができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援員、民生委員・児童委員等の連携を図りながら、ひとり親家庭の支援を推進していく必要があります。</li> </ul>
		母子生活支 援施設入所 委託事業	子育て応援課	母子家庭等において、さまざまな事情のため、子どもの養育が十分できない場合、母子生活支援施設へ子どもと一緒に入所し、生活の安定と自立を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉法に基づき適切に制度の説明を行い、対象家庭に母子生活支援施設を案内しました。(平成29年度実績 1件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も児童福祉法に基づき、適切に措置していく必要があります。</li> </ul>
		養育費確保 のための支 援	人権くらしの相談課 子育て応援課	民事執行法の改正等、養育費の制度や公的文書による取り決め方法等について、様々な機会に啓発を行います。必要に応じて、弁護士による法律相談等の専門相談に引きつぎます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て応援課窓口において、離婚前、離婚後の生活全般について幅広く相談に応じています。また、必要に応じ、法律相談等につないでいます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き窓口での相談に幅広く応じ、必要に応じて法律相談等、適切な専門機関へつないでいくよう努めます。</li> </ul>
		現況届時 における 情報提供	子育て応援課	児童扶養手当の現況届提出時に、ひとり親家庭等の保護者が情報を入手できるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童扶養手当の現況届受付会場に、ひとり親家庭向けの各種サービスの案内チラシを掲示し、周知に努めました。また、母子福祉会の加入促進のため、母子福祉会による活動PRも行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も引き続き、ひとり親家庭等の保護者が容易に情報を入手できるように努めていきます。</li> </ul>

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
4-1 ひとり 親家 庭の 自立 支援 の充 実		子ども家庭 センター等 との連携強 化	子育て応援課	子ども家庭センターや民生委員・児童委員、主任児童委員等の関係機関がひとり親家庭等の情報を共有し、ひとり親家庭等の抱えている問題解決を図ります。	・各関係機関で情報共有を行い、必要に応じて会議を実施。会議において関係機関が役割とする支援を定めることで、多面的な視点に基づいた支援を行うことができました。	関係機関との連携強化を図り、ひとり親家庭への支援に取り組む必要があります。
		日常生活支 援事業	子育て応援課	ひとり親家庭等の保護者が疾病や修学のため一時的に家事・育児等の日常生活に支障をきたした場合、日常生活の安定のための支援を行います。	・児童扶養手当の申請時に、制度の案内を行っています。 (利用実績 無)	・今後も引き続き制度の案内に努めていきます。
		経済的支援 の実施	子育て応援課 生活福祉課	ひとり親家庭に対する福祉資金の貸付相談、児童扶養手当支給事業、ひとり親家庭医療費助成事業等の制度の周知に努め、適切に実施します。 様々な制度を活用しても生活が出来ない場合は、生活保護などの適用を行いながら、自立を支援します。	生活保護を適用した母子世帯に対し、担当ケースワーカーが関わり、世帯の自立支援を行っています。 母子世帯数：平成28年度末 117世帯、平成29年度末 102世帯	今後もひとり親世帯の早期の自立に向けて支援を行います。
②就労 支援の 充実		ひとり親自 立支援プロ グラム策定 事業の推進	子育て応援課	ひとり親家庭の母又は父が就職することにより自立するために、公共職業安定所(ハローワーク)と連携してプログラムを策定し、必要な支援を行います。	・児童扶養手当の受付時に就業状況を聞き取ったうえ、必要者にはプログラム策定の申込みを勧奨し、ハローワークと連携して就労支援を行いました。	・ハローワークとの連携を密にし、今後も自立支援プログラム策定を推進していきます。
		就労支援機 関との連携 強化	子育て応援課	ひとり親家庭等の就業支援のため、公共職業安定所(ハローワーク)をはじめとした関係機関と連携を図ります。	・児童扶養手当の現況届受付会場において、ハローワークの出張相談窓口を設け、ひとり親家庭の就業支援について充実させることができました。	・ハローワークの出張相談窓口について、今後も継続して実施していきます。
		自立支援教 育訓練給付 金の支給	子育て応援課	ひとり親家庭の母又は父が、市の指定する講座を受講した場合に、受講後に講座受講料の一部を支給します。	・児童扶養手当の受付時を中心に制度の案内及び周知に努め、適切に実施しました。 (平成29年度申請件数4件)	・国の実施要綱に基づき適切に実施していきます。
		地域就労支 援事業	人権くらしの相談課	母子家庭の母を含め、働く意欲・就業希望がありながら、雇用・就業を妨げる様々な阻害要因を抱える就職困難者に対して、相談者1人ひとりに応じた就業支援を行ない、雇用・就業につなげます。	・大阪府等の関係機関と連携し、相談員による就労相談を行いました。	・関係機関との連携を強化するとともに、情報提供媒体の拡充を行うなど、就職困難者の就労を支援する為の施策を引き続き実施していきます。
		高等職業訓 練促進給付 金	子育て応援課	ひとり親家庭の母又は父が経済的な自立に効果的な資格を取得することを支援するため、修業期間中、給付金を支給します。	・児童扶養手当の受付時を中心に制度の周知に努め、適切に実施しました。 (平成29年度受給者数 9名)	・国の実施要綱に基づき適切に実施していきます。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		地域就労支 援事業の推 進	人権くらしの相談課	母子家庭の母親等で就職困難者に対し、国・府及び関係団体との連携を強化し、就労支援を推進します。	・ひとり親家庭の親などの就職困難者に対して相談員が就労相談を行うとともに、ハローワーク等の関係機関と協働で、就職情報フェア及びセミナーを開催しました。	・就労支援窓口の更なる周知を図るとともに、関係機関との連携を強化し、ひとり親家庭の親などの就職困難者が就労に結びつくためのより効果的な施策を検討し、就労支援を推進していきます。
①自立 支援の 充実		障がい福祉 サービス及 び地域生活 支援事業	障がい福祉課	障がい福祉サービスの利用に関する適切な相談及び支援を行い、制度の普及・啓発に努めます。	・障がい者(児)が住み慣れた地域で自立した暮らしを続けていくことができるよう、サービス等利用計画に基づく障がい者(児)個々のニーズに応じた適正な障がい福祉サービス等の給付を行いました。	・相談支援専門員の資格を有する職員を養成し、計画相談支援に係るノウハウを共有することにより、サービス等利用計画の内容について適正な審査を行い、さらに適切なサービス提供を実施します。
		社会参加に 向けた支援 体制の充実	子育て応援課 指導課	障がいのある児童が積極的に外出し、地域の人々と交流できるよう、社会参加促進のための事業の充実に努めます。	市内各校における障がい理解教育を実施しました。	・継続して市内各校における障がい理解教育を実施する必要があります。
		障がい者医 療費助成事 業 【3-5 ①の 再掲】	障がい福祉課	医療費の助成を行うことにより、障がいのある人の経済的負担の軽減を図り、安心して子育てできる環境づくりを行います。制度の普及・啓発に努めます。	・障がい者医療の対象者(①1～2級の身体障がい者手帳所持者(児)・重度の知的障がい者(児)②中度の知的障がい者で身体障がい者手帳所持者(児))による受診は、14,258件あり、平成29年度において、97,623,636円の助成を行いました。	・医療費助成制度を継続し、障がいのある人の経済的負担の軽減を図ります。
②放課 後支援 の充実		日中一時支 援事業 (障がい児 タイムケア 事業)	障がい福祉課	放課後等、障がいのある児童に活動の場を提供し、保護者の就労等を支援するために、制度の普及・啓発に努めます。	・障がい児の居場所の確保と保護者のレスパイト(休息・休養)を目的に、市内1事業所において障がい児タイムケア事業を行っています。	・放課後等デイサービスの創設及び普及に伴い、「障がい児タイムケア」事業所から放課後等デイサービスへの移行が進んでいるため、平成30年度をもって本事業の実施を終了します。
		放課後等デ イサービスの 充実	障がい福祉課 子育て応援課	事業者との連携を図りながら、放課後等デイサービスの充実に努めます。	・平成26年度当初、市内には放課後等デイサービス事業所は1事業所だけであったが、平成29年度末には12事業所により放課後等デイサービスが提供されており、個々の利用者の状況に応じた支援を行っています。	・放課後等デイサービス事業所における支援の実情を把握するとともに、各事業所における支援の質の向上させるための指導を行うことで、障がいのある学齢期の子どもの健全な育成を図る必要があります。

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
4-2 障がい児 及び発達 障がいの 子ども への支援 の充実	③療 育・教 育体制 の充実	障がい児教 育推進事業 の充実	こども育成課 指導課	教職員の研修の充実を図り、個々の児童生徒の障がい等に応じた適切な指導を実施します。 保育所・幼稚園・認定こども園で子どもへの介助員や障がい児担当加配に関し、医療・心理面などからの専門的で公平な判定を行えるよう、今後も努めます。 市立病院内に院内学級を設置し、病院療養児童の教育の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、認定こども園 障がい児担当配置数 4名</li> <li>・幼稚園介助員、特別支援員 配置数 12名</li> <li>・就学前施設において巡回相談を行い、支援方法等について学んでいます。</li> <li>・就園支援委員会で公平な判定を行い、加配配置ができるよう努めています。</li> </ul> 【教育支援センター 特別支援教育研究委員会】 『個別の教育支援計画について』『校種間及び校種内の引継ぎについて』『基礎的環境整備と合理的配慮について』 【介助員・特別支援教員連絡会(介助員対象)】 講義:『障がいのある子どもの支援について』講師:泉大津市立病院 心理士 前川登代美 氏 【就学前支援研修(全3回)(幼稚園・認定こども園・保育所の職員対象)】 市立病院内の院内学級では13名の児童生徒の指導を行いました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介助員や障がい児担当加配に関し、医療・心理面からも専門的で公平な判定が行えるよう努めます。</li> <li>・教職員研修の充実</li> </ul>
		幼児・親子 教室事業の 充実	子育て応援課	市立総合福祉センターの機能回復訓練室を利用し、発達支援事業として生活訓練、療育訓練の充実にも努めます。	幼児親子教室の入所者数は8人、幼児教室出席者数は138人(延人数)、親子教室出席者数は1,076人(延人数)であり、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練を行い、支援を必要とする児童の機能発達と育成及び自立助長を図れました。言語聴覚士、作業療法士が月に1回、保護者やスタッフからの相談を通じて助言、指導を行うことで、日々の療育の質の向上につながることができました。	関係機関との連携を図り、所属機関が変わった場合も継続した療育が受けられるように努める必要があります。
		発達障がいの 支援体制 の充実	障がい福祉課 こども育成課 子育て応援課 指導課	乳幼児健診、保育所、幼稚園、認定こども園等において発達に支援が必要な児童を早期に発見し、子どもの発達をより良く促すための早期療育に向けて、発達・育児相談等ライフステージに応じた支援に努めます。 相談支援ファイル「わたしノート」の活用、親支援として「ペアレントトレーニング」を実施します。 大学と連携し、就学前から小学校、さらに中学校へと続く支援の連続性の研究、通常学級でのユニバーサルな支援の研究を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の全障がい児通所支援事業所を対象とした集団ヒアリングと、新規に開所した事業所への訪問を障がい福祉課において実施し、支援体制・内容、課題等について聴取するとともに、放課後等デイサービスガイドラインに基づき、これら事業者の支援力及び支援の質を向上させるための指導等を行いました。</li> <li>・発達支援担当において、継続相談の対象を小学校6年生まで拡大するとともに、2歳6か月児育児相談を開始。早期気づき・早期支援をはじめ、家族支援や周知啓発など、切れ目ない支援を充実するための取り組みを行いました。</li> <li>相談件数(延)来所732件、出張118件、電話233件</li> <li>・情報の一元化のため、「わたしノート」を改訂し、22人の子どもの保護者に配布しました。また、ペアレントトレーニング(1クール7回)を、発達に課題のある就学前の子どもの保護者を対象に実施しました。</li> <li>・個別の支援計画を作成し、巡回相談アドバンス研修等で具体的な支援の方法を学ぶことができました。発達相談が受けやすいよう、保護者に情報提供を行いました。発達障がいについての理解を深め、個に応じた適切かつ有効な支援・指導ができるよう、特別支援コーディネーター研修(保育所・幼稚園・認定こども園・小中学校)等、研修の充実を図りました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切れ目ない支援を充実及び推進するために、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用を一層促進し、確実な引継ぎを行う必要があります。</li> <li>・個別の指導計画の充実</li> </ul>

基本 施策	推進施 策	主な施策・ 事業	所管	概要	平成29年度実績	今後の課題・目標
		総合的な支 援体制の整 備	人権くらしの相談課 障がい福祉課 子育て応援課 市立病院事務局 指導課	<p>子どもの発達を保障するため、発達支援ネットワーク部会や泉大津障害がい児(者)親の会などの情報共有と連携をさらに進め、支援の強化を図ります。</p> <p>すべての子どもが健やかに発達し、安心して暮らすために、切れ目のない(シームレスケア)保健・医療・福祉・教育・労働の分野間連携による総合的な支援について、各関係機関とともにルールづくりを進めます。</p> <p>相談員の適正配置を図り、乳幼児期から学齢、就労まで一貫した切れ目のない支援を総合的にコーディネートできるような体制強化を図ります。</p> <p>各学校園での支援体制作りや支援活動をサポートしていくとともに、今後、大学と連携し、就学前から小学校、さらに中学校へと続く支援の連続性の研究や通常の学級でのユニバーサルな支援の研究を進め、さらなる支援体制の構築を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援ネットワーク部会を2回開催。また、庁内からなる発達支援体制検討会議を2回開催し、施策の推進および切れ目ない支援体制構築に向け、関係機関と情報共有・連携を行いました。</li> <li>・総合支援専門家会議を年2回開催。施策の推進及び切れ目ない支援体制に向け関係機関と情報共有、連携を行いました。</li> <li>・特別支援コーディネーター研修の実施(幼・保・認定こども園・小・中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージに応じた支援が途切れなく行えるように、教育・医療・福祉機関などとの連携の強化に取り組む必要があります。</li> <li>・関係機関との更なる連携の強化を図るとともに、庁内関係部署とも連携を密にし、支援体制の強化を図ります。</li> <li>・個別の教育支援計画の引き継ぎについての研究。</li> </ul>
		専門的な児 童発達支援 拠点の設置	障がい福祉課 子育て応援課	<p>高度で専門的な療育を実施している三ヶ山学園等の専門療育機関との連携強化を図ります。</p> <p>市内に児童発達支援事業所あるいは児童発達支援センターの設置について、関係機関や事業者と検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童通所支援センター(障がい児通園施設)及び発達障がい児療育等支援事業所の入所児童の処遇改善、療育内容の充実及び円滑な運営を図ることを目的とし、障がい児通所支援施設への補助事業を行うことにより、本格的な早期療育の機会を提供することができ、子どもたちの将来にわたる自立の促進に寄与することができました。</li> <li>・平成26年度当初、市内には児童発達支援を実施する事業所は1事業所だけであったが、平成29年度末には6事業所により児童発達支援が提供されており、個々の利用者の状況に応じた支援を行っています。</li> </ul>	<p>専門療育機関との連携強化を図り、高度で専門的な療育の実施に向けた取組みを行う必要があります。</p>

